

人が診る、人を診る、人間性豊かな医療人になる
Gunma University Faculty of Medicine

群馬大学 医学部

医学科・保健学科

2019

入学案内



| | |
|-------------------|----|
| 医学部長メッセージ | 1 |
| 学科長対談 | 2 |
| 医学科 | |
| 医学科長メッセージ | 6 |
| 医学科トピックス | 7 |
| 医学科カリキュラム | 10 |
| 私たちの大学生活 | 12 |
| OB・OGメッセージ | 14 |
| 保健学科 | |
| 保健学科長メッセージ | 16 |
| 保健学科専攻構成 | 17 |
| 保健学科トピックス | 18 |
| 保健学科教員 | 20 |
| 保健学科カリキュラム | 24 |
| 私たちの大学生活 | 26 |
| OB・OGメッセージ | 30 |
| クラブ・コミティー | |
| オープンキャンパス | 32 |
| 施設紹介 | 34 |
| 教育ポリシー | 36 |
| Question & Answer | 38 |
| インフォメーション | 40 |

人が診る、人を診る、
人間性豊かな医療人になる

沿革

History of Gunma University Faculty of Medicine

- 昭和18年 4月 ● 前橋医学専門学校設置
- 昭和23年 2月 ● 前橋医科大学設置
- 昭和24年 5月 ● 群馬大学医学部となる
- 昭和30年 7月 ● 群馬大学大学院医学研究科(博士課程)設置
- 平成 8年10月 ● 群馬大学医学部保健学科設置
- 平成13年 4月 ● 大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称し、保健学専攻(修士課程)設置
- 平成15年 4月 ● 大学院医学系研究科医科学専攻に講座設置
同保健学専攻博士(後期)課程設置
- 平成19年 4月 ● 大学院医学系研究科生命医科学専攻(修士課程)設置
- 平成23年 4月 ● 大学院保健学研究科設置



群馬大学医学部長

石崎 泰樹

昭和18年に前橋医学専門学校が設置され、昭和24年に群馬大学医学部となり、昭和30年には大学院医学研究科(博士課程)が設置されました。平成8年に、医療技術短期大学の保健学科への改組に伴い、医学部は2学科(医学科と保健学科)となりました。平成13年に保健学の大学院(修士課程)が新設され、平成15年には保健学専攻(博士課程前期および後期)へと発展しました。また、平成19年には生命医科学専攻(修士課程)が設置されました。平成23年には大学院保健学研究科(保健学専攻)が設置され、昭和キャンパスにおける医学部2学科、2大学院(3専攻)の体制が整いました。

群馬大学医学部は北関東における医学・保健学教育と研究の中心として、医学科では多くの医師、医学研究者、医療行政者などを育成し、保健学科では看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士などを育成してきました。医学部附属病院は、地域医療の中核として社会に貢献しています。重粒子線医学センターでは、平成22年より日本の大学に最初に設置された世界最先端のがん治療装置を用いて重粒子線治療を開始しました。

医学科は、生命や人体の構造と機能を追求し、疾病の本態を解明し、それを克服するための方策を探求するとともに、優れた人間性をもつ医師や最先端の医学研究者を養成することを主な目的としています。保健学科は、総合的で先進的な保健学教育・研究を展開することを通して、保健医療の専門職として確固たる倫理観と豊かな人間性を持ち、社会的使命を果たすことのできる医療人の育成を目的としています。

医療の現場では医師と医師以外のスタッフから構成されるチームで患者さんの診療に当たります。群馬大学医学部は、医師を養成する医学科と医師以外のスタッフを養成する保健学科が同じキャンパス内にあります。医学科の学生と保健学科の学生は共通の講義もあり、2018年からは両方の学科の学生がともに参加するチームワーク実習を充実化しました。またクラブ活動も両方の学科の学生が参加しています。これらにより、医学部では卒後に医師と医師以外のスタッフが密接に連携し、より良質の医療を提供することを目指しています。

医学部では国際交流にも力を入れています。アメリカ合衆国、ドイツ、モンゴル、台湾、インドネシア、タイ、コロンビア、ニカラグアなどの大学とは、学部学生が国際間交流を行なっています。国際的に医療人として活躍しようと考えている人ばかりでなく、多くの学生諸君が先進国や途上国の医療情勢を体験し、外国の医学系の知人と情報を交換し国際感覚を培うことは、将来的にも有用で意義深いことです。医学部では今後も国際交流の充実を進めていきます。

医師として、あるいは看護師、保健師、助産師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士として、また医学・保健学の研究者として、人類の福祉のために貢献したいと願う人は是非群馬大学医学部で学ぶことを考えてください。

安心・安全な医療の提供を目指

高度で良質な医療を提供するために必要なのは、学生のころから一貫した医療安全教育。本学が今、最も力を入れている安心・安全な医療の提供を目指す教育が生まれた背景と、今後の展望などを医学科、保健学科両学科長が語った。

医学科長

石崎 泰樹 (いしざき やすき)

昭和56年 東京大学医学部医学科卒業

昭和60年 東京大学大学院医学系研究科修了

昭和60年 岡崎国立共同研究機構生理学研究所特別協力研究員、日本学術振興会特別研究員

昭和62年 東京医科歯科大学歯学部附属顎口腔総合研究施設助手 (～平成9年)

平成 3年 ロンドン大学ユニヴァーシティカレッジ生物学部客員研究員 (～平成6年)

平成 9年 神戸大学医学部助教授

平成13年 群馬大学医学部助教授

平成15年 群馬大学大学院医学系研究科助教授

平成16年 群馬大学大学院医学系研究科教授

平成29年 群馬大学医学部長

群馬大学大学院医学系研究科長

群馬大学教育研究評議会評議員

● 医学博士



医療安全 = Patient Safety

安全な医療に欠かせない多職種連携

石崎 安心できる安全な医療を提供することは医療従事者の使命です。群馬大学医学部は、医療を提供する人材を教育・育成する機関です。本学部では医療の世界を目指す学生たちが、しっかりと安全な教育を身につけられるカリキュラムを用意しています。医療安全とは、英語で言うと Patient Safety。患者さんの安全です。医療従事者が患者さんに安心安全な医療を提供すること、と私は認識しています。村上先生は、いかがですか？

村上 そうですね。基本は、患者さんが安全な医療を受けるといことです。さらに、それを支える体制も含めて医療安全と言うのではないかと思います。そのために必要な医療安全に対してしっかりと意識を持った人材を育てることが、大学として大事になってきます。

石崎 今年4月、東京で第3回閣僚級世界患者安全サミットが開かれました。ここに参加された方の一部をお招きして、群馬県

内でシンポジウムを開催し、Patient Safety についてお話をいただきました。その中で非常に心に残ったのは、イギリスの Patient Safety の重鎮であるマイク・ダーキン先生がおっしゃった「最終的に医療の質を確保する秘訣は『愛』だ」という言葉。まさにそのとおり、と強く感じました。また、医師、看護師、臨床検査技師、作業療法士、理学療法士といったチームワークの重要性が明らかになったシンポジウムでした。

村上 安全な医療を提供するためには、本学で力を入れている多職種連携、チーム医療が非常に大切です。このシンポジウムで、本学はチーム医療では世界的にトップレベルの取り組みをしているとの評価をいただきました。実際、これらの実績が評価されて、2013年には群馬大学はチーム医療教育・研究を推進する機関として、WHO コラポレーティングセンター (WHOC) に指定されました。現在、日本国内で27機関、6つの国立大学がWHOC 指定を受けていますが、保健人材育成部門で指定を受けたのは、本学保健学科が国内ではもちろん、世界でも初です。今ではチーム医療教育を海外にも広めるために、本学の先生方が南ア

ジアや東南アジアに出向いて講演会やワークショップを開いています。また、チーム医療教育のトレーニングコースを設けて、これらの国々の大学教員や医療従事者を日本に招いています。これらの地域では、人口に対して医療従事者が大変少ないのです。特に医師の不足は顕著です。そうすると、一層大切になってくるのがチーム医療です。優秀なメディカルスタッフを育てないと、医療が成り立たない状況なのです。そのためにチーム医療教育が必要なのです。保健学科には、20年近いチーム医療教育の歴史があります。また、教育だけではなく、チームワーク実習や講義などの教育を施した後に生じる学生の意識の変化を調査・解析して、その効果を検証する研究も積み重ねてきました。英語の論文も多数執筆しています。その効果の一つをご紹介します。多くの学生は、チームワーク実習の後、「いろいろな分野におけるチームワークのあり方」や「チームワークの重要性」などはよく理解できたが、「自分の職種の専門性と独立性」の理解が不十分であることが分かり、その改善にあたりました。明らかなことは、他職種の役割を理解し、自分との関連を理解

す教育



対談

石崎 泰樹 医学科長



村上 博和 保健学科長

保健学科長

村上 博和 (むらかみ ひろかず)

昭和53年 群馬大学医学部卒業

昭和53年 群馬大学附属病院第三内科医員 (研修医)

昭和58年 群馬大学医療技術短期大学部助手

昭和62年 群馬大学附属病院第三内科助手

平成 3年 群馬大学附属病院第三内科講師

平成 6年 群馬大学附属病院輸血部助教授

平成 9年 群馬大学医学部保健学科教授

平成13年 群馬大学大学院医学系研究科保健学専攻教授

平成17年 群馬大学医学部保健学科学科長、副医学部長
(~平成21年)

群馬大学大学院医学系研究科保健学専攻長
(~平成21年)

平成23年 群馬大学教育研究評議会評議員 (~現在)

平成25年 群馬大学医学部保健学科学科長、副医学部長

群馬大学大学院保健学研究科長

● 医学博士

することが最も大切です。これが理解できるようになると、卒業後、職場に出ても、チームの一員として自分の意見をしっかりと伝えるようになると思います。

総合大学という群大の形態そのものがチームワークの鍛錬

石崎 本学は、総合大学。医学部以外に、教育学部、理工学部、社会情報学部があり、学生たちはサークルを通して学科を超えた交流をしています。特に医学部は、同じキャンパス内に医学科も保健学科もあって、医学部共通のサークルがありますから、普段の何気ない話の中から自然と他学科がどんな学びをしているか、どんな職種なのかを理解できる環境にあるのです。私が顧問を務めているオーケストラサークルでは、それぞれの楽器が個性を主張して音楽を作ります。どんなに一人の技量が優れていても自分以外のパートの出す音に耳を傾けてないと良いハーモニーは生まれません。医療も同じです。お互いがどんな機能を持っていて、その中で自分はどのような能力を発揮すればいいかを自覚しないと、良質の医療は提供できません。そういう意味でオーケ

ストラは、非常に多職種連携のよい修練の場になると感じています。

村上 納得できますね。

石崎 多職種連携に関しては、圧倒的に保健学科の方が進んでいて医学科は追いつこうというスタンスです。先ほどお話ししたシンポジウムで、医療が発展していない国では医師と他のスタッフの間に敷居があるという話も出ました。日本も少し前まではそうでしたが、だんだんそのような意識や敷居がなくなってきました。医学科の学生にも、村上先生がおっしゃったようにお互いの独立性を理解して尊重し合って医療を提供できる人材になってほしいので、チームワーク実習を必修にする仕組みを作ろうとしています。

村上 医学科の学生さん全員を対象に、チームワーク実習を実施するためには、県内の他の大学と協力した方が良いのでは、と相談しているところです。チームワーク実習で大切なのは、あまり大人数のチームにしないこと。意見が言いやすいように10人前後くらいがいいと思います。もう1つは、さまざまなメディカルスタッフが参加すること。今年から、高崎健康福祉大学の薬学部

の学生さんが加わって下さり、今まで以上に充実した実習ができるようになりました。本学に薬学部はありませんが、医療の世界では、薬剤師さんの役割は非常に大切です。薬学の分野も非常に高度化、細分化しています。例えば、次々と新しい作用機序の薬剤が登場していますし、作用、副作用、配合禁忌など、注意すべき点もたくさんあります。医師は当然これらに対応しなければなりません。他にも様々な業務がありますので、追いつかないのが現状です。そこで、薬剤師の指示が大事になってくるわけです。チーム医療では、薬剤師さんはどのような考えを持って仕事をしているのかも理解しなければなりません。ですから、薬学部の学生さんにもチームワーク実習に加わっていただきかったのです。

石崎 最近、医師の働き方改革が強く謳われています。その解決策の1つと言われてるのが、タスクシェアリングとかタスクシフティングです。今まで医師が一手に引き受けていた仕事の一部を他の職種の方に代わってもらったり、共有してもらったりすると、過重な労働が軽減できます。薬学を専攻している学生さんがチームの一員



になって実習できるのは、その一助にもなりますね。

村上 以前、附属病院では薬剤師さんは薬剤部にしかいませんでしたが、今は各病棟にいて患者さんに薬の飲み方や副作用など詳しく説明しています。病院によって違いますが、臨床検査技師さんが病棟へ出て行って検査結果の説明をするようなところもあります。複雑化した医療負担をうまく分けるためにも、必要なのはチームワーク医療。個人の意識を高める多職種との関わりが欠かせません。タスクシェアリングで、医療スタッフそれぞれの専門性は一層高まります。それが医療安全にも繋がってくると思います。

医学教育分野別評価に認定 業界をリードする研究者・教育者を育成

石崎 医学科は、昨年、日本医学教育評価機構(JACME)による医学教育分野別評価を受審し、「認定」という評価をいただきました。本学医学科の教育プログラムがグローバルスタンダードに耐えるもの、と評価されたのです。JACMEが世界医学教育連盟(WFME)から医学教育分野別評価の認定機関として認証されたのが昨年3月で、その後JACMEによる評価を受けた大学はまだ少数で、本学医学科はその一つです。医学教育分野別評価の認定は、さまざまな影響を及ぼしますが、その1つがアメリカの医師国家試験です。今は、日本の医学部を

出ていけば、アメリカの医師国家試験の受験資格がありますが、2023年以降は、医学教育分野別評価で「認定」という評価を受けた大学の卒業生でないと受験資格がいただけなくなります。本学は「認定」という評価を受けましたから、引き続き、受験資格が得られます。世界への扉も開かれています。

村上 評価を得た要因に、教育プログラムの改訂が挙げられますね。

石崎 これまで、本学の医学教育は、教える側が望む学びを学生が身につけたか、という視点のプロセス基盤型教育でしたが、2016年からアウトカム基盤型教育への変革を開始しました。アウトカムとは「卒業時に目指すべき学生像」のことです。医学科では卒業時に目指す学生の姿として「SESについて生涯自己研鑽を続けることができる学生」を掲げています。SESはScience(科学的知)、Ethics(倫理)、Skill(技能)の頭文字です。さらに細かく言うと大学の6年間で、医師として重要な次の8つの能力を身につけることを目指します。それがA. 自己省察力、B. 知識の獲得と知識を応用する力、C. コミュニケーション能力、D. チーム医療の中で協働する力、E. 基本的な総合診察能力、F. 地域医療の向上に貢献する能力、G. 医学研究を遂行する能力、H. 自己研鑽です。この8つの力が身につくプログラムの策定が評価されたと思います。

村上 一人ひとりに教育を浸透させるために、チューター制度が有効ですね。

石崎 そうですね。チューター制度とは、

一人の教授が各学年4～5人の学生の担任になって、ときどき食事をしたり、面談をしたりして6年間、面倒を見るシステムです。試験を落として再試験に判子を押すのはチューターですから、成績が芳しくない場合はお尻をたたく(笑)。万が一国家試験に落ちた場合は、チューターの研究室で勉強させたりもします。

村上 大学院医学系研究科では、昨年からは医療の質・安全学講座が開催されていますね。

石崎 はい。聖路加国際病院から小松康宏先生を教授としてお招きして、今年度のチームワーク実習のカリキュラムの改訂も進んでいます。聖路加国際病院は小松先生が中心となってJCI(Joint Commission International: 国際病院評価機構)の認定を受けました。医学部附属病院も、小松先生を中心に近い将来JCIの認定を目指している最中です。病院で安全安心の医療を提供するためには、学部教育から変えなければ駄目だと、医学科のカリキュラムも考えてくださっています。

村上 大学で、チームワーク実習の座学を保健学科と医学科と共同で開催するようになったのも大きな変化ですね。大学院では研究倫理が医学科、保健学科共通科目になりました。チーム医療を実施するうえで、各職種の独自性を高めることが必要です。それには教育レベルを上げなくてはなりません。医学科は6年制ですから、大学院の博士前期課程まで終わった状態で卒業します。保健学科は4年制ですから、できれば多くの学生さんに大学院に進んでいただきたいと思っています。知識技術は4年で身につきますが、研究能力、思考力、指導力、教育力をつけるには、もう2年間必要であると考えています。現在、看護教育の向上を目指して、看護系大学はものすごい勢いで増えています。特に、群馬県は7校の看護大学があるという全国でもまれな県です。しかし、看護学、臨床検査学、理学療法学、作業療法学分野の教育者や研究者が少ないのです。人材育成も本学の役割ですから、多くの学生さんに大学院に進んでいただき、それぞれの学問分野をリードする研究者・教育者の道を目指してほしいですね。

大切な心の教育 高学年までシームレスな教育を

石崎 医学科で特徴的な講義は、1年生の必修である「医の倫理学」です。このような

講義があるのは、私の知る限り群馬大学だけです。この講義の中のケーススタディは提示した事例について学生にどう考えるかを問うもので、正解はありません。担当の服部先生が作成したDVDを拝見しましたが、どのような解決法があるか、すぐには分からないケースがほとんど。非常に勉強になります。医学・医療の知識が全くない1年生のときと、臨床実習を経た後では考えが変わるでしょうから、1年生だけの講義で終わらせるのではなく、高学年までシームレスに教育ができる仕組みができればいいと思っています。

村上 医療事故が起こったときの対応も教育の中に入れておいた方がよいと考えます。シンポジウムでも、「医療事故が起こることは大前提である。そこで、起こってしまった医療事故にどう対応するかが重要であることや、個人を責めるのではなく組織をチェックしてそれをどう改めるのか」が医療安全につながるという話がありました。医療事故に対する誤った対応法が医療の世界に広まると、適切かつ応用力のある医療ができなくなります。医療事故に対する対応には、医療体制の検討、医療従事者の意識改革、法律なども関わってきますが、医療安全教育では欠かせないテーマと考えます。

課題はアウトカムのフォロー 在宅医療の専門家育成に尽力

石崎 医学科は、医学を通して人類の福祉に貢献できるような人材を育てることを目指しています。

村上 私たちが望む姿は2つあります。1つは、チーム医療に貢献できる高い倫理観を持った保健医療人の育成。もう1つは、高い知識と技術を持った高度専門医療人の育成。この二本柱でやっています。

石崎 医学科はアウトカムを大切にしているのですが、残念なのは個人情報保護の関係で、卒業生がどのように社会的に貢献しているかがフォローできていない点です。どういうアウトカムが産み出されたかが分からないのです。そこが一番の課題です。アウトカムに関する情報を分析してそれを医学教育の改善にフィードバックしなければ教育のPDCAサイクルはうまく機能しません。せめて、県内で勤務する医師の実態が分かる体制ができないか、と群馬県に依頼しているところです。

村上 保健学科では、先ほども申しました



ように大学院への進学を勧めています。現在、厚生労働省が、住み慣れた地域で充実した生活を送って最期を迎えるという「地域包括ケアシステム」を進めており、医療が病院中心から在宅中心に変わりつつあります。しかし、体制が追いつけないのが現状です。保健学科では、それを支える人材養成に力を入れています。平成26年度に開始された文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の群馬大学における事業に「群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー（通称群馬GP）」というプログラムがあります。これは、健康長寿社会の実現に関わる優れた医療人材を養成するために、本学が構築した特色ある教育プログラムです。このプログラムでは、在宅医療教育を推進するための学部カリキュラムの再編成と、大学院における在宅医療専門の看護師養成が柱となっています。さらに、すでに在宅医療の現場で働いている看護師さんに対して履修証明プログラムも開講しています。一度社会に出ると忙しくて勉強をする機会が減りがちですが、医療の進歩は著しいため、それに対応できる知識・技術を学ばなければなりません。

石崎 保健学科の博士前期課程は昼夜開講でうまくいっていますね。医学系研究科にも修士課程（生命医科学専攻）がありますが、現状では昼間しか開講していません。その点が近年修士課程に入学する学生の減少の原因の一つでは無いかと考えています。さらに多くの学生を迎え入れるために、理工

学府と共通のプログラムを組んで医理工連携を強化する話も具体化しています。

本学で深い知識と確かな技術を 学び愛ある医療人に

村上 社会の様々な問題に対する関心を持ち、人に対する愛情をしっかりと持った学生さんに入学してもらいたいですね。そして、入学後は、メディカルスタッフのリーダー、保健学の研究者・教育者になる意識を持って勉学に励んでいただきたいと思っています。群馬大学保健学科は2014年に文部科学省によって行われた「ミッションの再定義」で高い評価を得て、「実践科学の学術的追求を通じた次世代指導者・教育者・研究者養成」グループに分類されました。このように教育体制はしっかりとしていますので、安心して入学してください。

石崎 先ほどもお話ししたように医学科は、医学を通して人類の福祉に貢献できるような人材養成を目指しています。具体的に言うと、医学研究の最先端で活躍できる人材、医療行政を通して社会の福祉に貢献できる人材、臨床の最先端で活躍できる人材です。いずれかの道で社会に貢献したいと願っている人に入学していただきたいですね。先ほど申し上げましたように、医学科ではアウトカム基盤型のプログラムが整っています。「何を学ぶか」ではなく「何ができるようになるのか」が明確です。本学でさまざまな知識や技術を身につけ、愛ある医療人として羽ばたいてほしいですね。



Message

● 医学科長 石崎 泰樹

群馬大学医学部医学科は2016年9月にアウトカムを策定しました。アウトカムとは「卒業時に目指すべき学生像」です。それは、「医学・医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知Science、倫理Ethics、技能Skillの3つの面にわたって生涯自己研鑽を続けることができる学生」というものです。

具体的には以下の8つの能力を身につけなければなりません。

A. 自己省察力

自分にとって何が課題であるかを見定め、自己管理に努めながら、1つずつ課題に取り組むことができる。

B. 知識の獲得と知識を応用する力

基礎医学、臨床医学の各分野における知識を身につけ、それらがお互いに関連していることを理解し応用することができる。また、医師が持つべき知は医学にとどまらないことを理解し自然科学をはじめとする幅広い分野の知識を身につけ、それらを医学・医療に応用する力を培う。

C. コミュニケーション能力

相互理解と人間関係の構築を意識し、患者やその家族、スタッフと対話を重ねることができる。

D. チーム医療の中で協働する力

医療チームの他の構成員と積極的に対話を重ねる意義を理解し、他職種の専門性を尊重しながら対等な立場に立って協働することができる。

E. 基本的な総合診療能力

統合された知識、技能、態度に基づき、患者にとってより良い医療を提供するための実践的能力を有する。

F. 地域医療の向上に貢献する能力

医療の社会的・経済的側面を把握し、地域医療に貢献するための能力を身につけている。

G. 医学研究を遂行する能力

医学・医療の発展に資する研究を遂行する意欲と資質を備える。

H. 自己研鑽

医師としてのキャリアを継続させて、生涯にわたり自己研鑽を行なう意欲を持ち続ける。

医学科は2017年に日本医学教育評価機構(JACME)の医学教育分野別評価を受審し、「グローバルスタンダードに合う医学教育を実施している」と認定されました。是非グローバルスタンダードの医学教育を受けて上記の能力を身に付け、臨床医として、基礎研究医として、あるいは公衆衛生医として、人類の福祉に貢献していただきたいと思えます。



● 北関東を代表する国立大学医学部

● 北関東に広がる強力な関連医療機関ネットワーク

人体、生命の神秘を追求し、疾病の本態を解明し、それを克服するための方策を探求するとともに、優れた医師、真摯な医学研究者を養成することを目的としています。



- 国立大学医学部
- 先端医学研究拠点
- 早期体験実習
- MD-PhDコース
- 医療安全
- 海外医療機関実習

Topic 1

医療の質・安全学講座を全国に先駆けて設置

高いレベルの医療の質及びPatient Safety(患者安全)を目指し、全国に先駆けて医療の質・安全学講座を設置しました。この講座はWHO等の国際機関との緊密な連携のもとに教育研究活動を進めます。医学科の学生は、初年次から卒業時まで、さらには

卒後においても、系統的に医療の質・安全学を学ぶことができます。現代の医療はチーム医療であり、患者安全のためにはチーム内の多職種連携が不可欠です。この意味から保健学科の学生との共通講義・実習も設定されます。

Topic 2

低学年から大学病院や地域医療の現場で学ぶ早期体験実習

解剖学や生理学など医学科の専門科目が本格的に始まるのは2年次で、Student Doctorとして患者さんの診療に参加するのは4年次後半ですが、医学科では、1年次、2年次から医療現場で学ぶ機会を提供しています。1年次では大学病院の病棟おもに看護師さんとともに医療現場を体験する実習をおこないます。2年次では老人保健施設などおもに介護に従事する実習をおこないます。さらに4年次には選択科目として、保健学科の学生とともに学ぶチームワーク実習があります。医学科と保健学科の連携が良い本学の特徴です。いずれも多職種連携について学ぶ絶好の機会です。



Topic 3

スキルラボセンターの充実したシミュレーション教育

医学部附属病院のスキルラボセンターは、採血や気管挿管、縫合といった基本的手技から、内視鏡検査や超音波検査、そして腹腔鏡手術、ロボット手術などの最先端の医療技術までトレーニングを行うことができる、様々なシミュレーターを有する国内屈指の施設です。低学年の基礎医学の実習から高学年の臨床

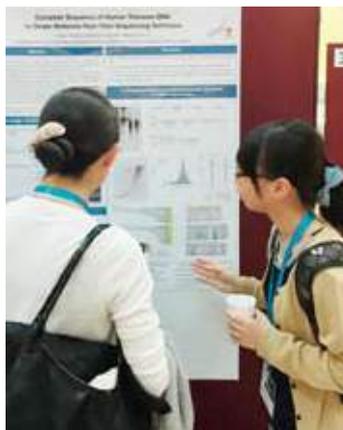
実習まで、様々な場面で医学科の学生が利用しています。低学年から実際の医療機器に触れたり、診療場面を再現するシナリオを設定してトレーニングをおこなったりすることも可能です。さらに、病院で働く医師や看護師、薬剤師などの医療従事者も利用し、医療技術の維持、向上に役立てています。



Topic 4

学生のうちから研究に参加できるMD-PhDコース

医師には患者さんを診る臨床医の他に、病気の予防や治療を目指して研究をおこなう研究医もいます。研究医を目指す学生にはもちろん、臨床医を目指す学生でも研究に興味がある学生にMD-PhDコースがお勧めです。本学のMD-PhDコースでは、医学科の授業は通常通り受け、夕方などの時間を利用して研究室での活動に参加する方式をとっています。医学科卒業時にMD-PhDコースでの活動が認められれば、将来大学院に進学したときに通常より1年早く博士の学位を取得することが可能です。コースに参加する多くの学生が学会発表もおこなっています。夏には他大学の学生と研究討論会もおこなっており、医学研究についての夢を語り合うこともできます。



Topic 5

海外医療の現場を体験できる留学プログラム

医学科では、夏休みなどを利用してドイツ、タイ、インドネシア、コロンビアなどの海外の大学や病院に行き、海外医療の現場を体験するプログラムが充実しています。海外の医療の実情を学び、他国の医学生と友達になるチャンスです。



Topic 6

充実した学習環境

昭和キャンパスの図書館は24時間利用できます。医学の専門書・学術雑誌を中心に所蔵しており、いつでも閲覧できます。閲覧スペースに加え学習スペースも多くの学生に利用されています。グループ学習やディスカッションなどに利用できるスペースも設けてあります。試験を控えた学生は、友人同士で教えあいながら勉強に励んでいます。

図書館以外にも、キャンパス内には国家試験を控えた6年生用に24時間利用可能な、個別ブースを備えた自主学習室が設けてあります。机を並べて教えあい、励ましあいながら全員で国家試験突破を目指します。



Topic 7

チューター制度で入学から卒業まで学生をサポート

医学科では、学生一人一人にチューターとして教授を割り当て、個別に指導と助言を行う「チューター制度」を設けています。チューターは、入学時から卒業時まで一貫して学生をサポートします。学生生活において困ったことがあった場合、学修上の問題があった場合、留学先や研修病院先への推薦書が必要な場合など、あらゆる場面で相談ののり、適切なサポートをします。またチューター制度以外にも学生相談員なども設けており、教職員一体となって学生生活をサポートしています。



Topic 8

豊かな自然環境

群馬県は東京から新幹線に乗れば1時間の首都圏ですが、大学のキャンパスは赤城、榛名、妙義の上毛三山に囲まれ、関東平野を潤す利根川が近くを流れるなど、自然環境に恵まれており、落ち着いて勉学に励めます。また、少し足を延ばせばスキー場や温泉、避暑地として人気の軽井沢と、いずれも思い立ったらすぐに友達と出かけられます。新入生歓迎行事は伊香保温泉、5年次春の合宿は草津温泉で毎年おこなっています。

医学科
の
特色

群馬大学で広がる未来！

- 臨床医に加えて理化学研究所などの研究者、WHOの医療行政担当者など多様なキャリアを可能にする医師免許
- 北関東に広がる強力な関連医療機関における臨床研修
- 初期研修と大学院博士課程の両立を可能にする卒前・卒後一貫MD-PhDコース

研究の特色

- 内分泌・代謝学、重粒子線治療を含む統合腫瘍学、神経系の再生医療など世界トップレベルの医学研究拠点
- 重粒子線治療を始めとする先進医療

医の科学 (Science)、倫理 (Ethics)、技能 (Skill) の探求とそれらの統合による医学の研究と教育の推進並びに医学と医療をリードする人材の育成を目指しています。

1 年次

教養教育

医師として基本的な素養と人間性を磨く

教養教育はおもに荒牧キャンパスでおこなわれます。医学部、教育学部、理工学部、社会情報学部すべての学生が交流し、様々な考え方に接することができる場です。医学を学ぶ上で必要な科学的素養を身に付けるとともに、医師として必要な、人と社会を理解する文化的素養を身に付けます。荒牧キャンパスは運動施設も充実しており、全学部で構成されるクラブ、サークル活動にも参加できます。

教養教育に加え、月曜日は医学部のある昭和キャンパスで医の倫理学や附属病院での実習など、医学科としての専門教育もおこなわれます。



2 年次・3 年次・4 年次前期

基礎医学・臨床医学

医学の基礎と疾患を理解し、医療人となるうえでの基礎を築く

2年次から専門科目が始まります。医学・医療の知識、技能、態度について講義、TBL（チーム基盤型学習）、実習を通して学びます。まず解剖学や生理学、生化学で人体の構造と機能を学びます。さらに病気を起こす原因や環境について学びながら、疾患の基礎を理解します。これらの基礎的な知識をもとに、個々の具体的な疾患の診断や治療について学びます。診察や治療の技能の修練にはシミュレーション教育を取り入れており、人体模型を用いて基本技能の習得に励みます。また、医療倫理、医

療安全、チーム医療をしっかりと学べるよう、充実した教育体制を整えています。さらに医学研究に興味のある学生はMD-PhDコースを選択して研究能力を磨くことができます。



4年次後期・5年次・6年次

診療参加型臨床実習

医師となるうえで必要な総合的診療能力を身につける

これまでに学んだ知識・技能・態度について、全国共通試験（CBT、OSCE）に合格した学生には、臨床実習をおこなうための Student Doctorの資格が与えられます。臨床実習では、附属病院および地域の医療施設の協力の下、診療参加型実習の拡充を図っています。診療参加型実習の中で学生はチームの一員として診療に参加し、スタッフや患者さんのご協力のもと診療の基礎を学びます。臨床実習でもシミュレーション教育を積極的に取り入れ、臨床の基本となる手技を確実に修得できる環境を整えています。



臨床実習を修了し、筆記試験と実技試験（臨床実習終了時OSCE）に合格すると卒業資格および医師国家試験の受験資格を得ることができます。

国家試験の合格は医師としてのスタートラインに立てたことを意味するに過ぎません。生涯を通じて学ぶ姿勢が必要です。



教育の特長 ①

本学のアウトカム基盤型の医学教育カリキュラムは、世界標準に基づき認定されています。

卒業時に目指す学生の姿として「SESについて生涯自己研鑽を続けることができる学生」を掲げています。SESはScience、Ethics、Skillの頭文字で、それぞれ「科学的知、倫理、技能」をあらわしています。SESの理念のもとに、卒業時に身につけておくべき医師として重要な力（アウトカム）を8つ設定しました。A.自己省察力、B.知識の獲得と知識を応用する力、C.コミュニケーション能力、D.チーム医療の中で協働する力、E.基本的な総合診察能力、F.地域医療の向上に貢献する能力、G.医学研究を遂行する能力、H.自己研鑽。これらのアウトカムを6年間のカリキュラムで身につける、アウトカム基盤型の医学教育を行っています。

平成29年度には、世界標準に基づく第三者評価である医学教育分野別評価を受審し、本学のカリキュラムとそれを支える教育体制や設備について、評価基準に適合していることが認定されました。

教育の特長 ②

多職種連携教育と医療の質・安全教育の充実を図っています。

本学では、全国の医学部に先駆けて医療の質・安全学講座を設置しました。保健学科や他の医療機関、本学に設置されているWHO協力センターとの協力のもと多職種連携教育を充実させ、学生のうちから医療の質と安全に関する教育に力を入れています。

教育の特長 ③

群馬県内の医療施設と連携し、6年間の教育を支えます。

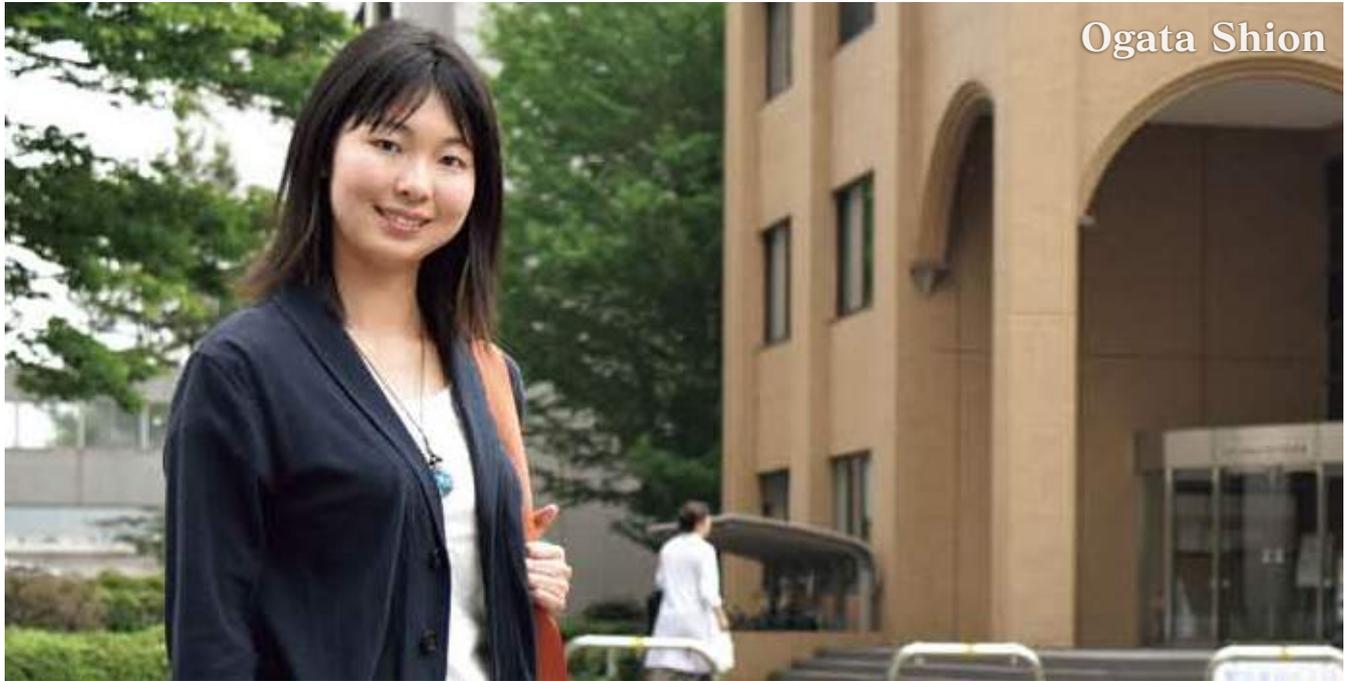
1年次から早期体験実習を導入しています。1年次では附属病院、2年次では県内の医療施設において、介護、福祉、診療におよぶ実習を幅広く履修します。4年次には保健学科学生と合同で実施するチームワーク実習で多職種連携について学びます。Student Doctorとしての臨床実習では、附属病院および地域の基幹病院や診療所を含む医療施設の協力の下、診療参加型実習の拡充を図り、地域の特性に応じた医療について学ぶ機会を提供しています。さらに卒業後には、新専門医制度にも対応した研修が受けられるよう、群馬県および県下の病院が一丸となって専門医取得までサポートする体制を整えており、安心して医師としてのキャリアアップが可能です。



尾形 詩音 さん

● 医学部医学科2年
● 群馬県立前橋女子高等学校 出身

強い意志と、今やるべきことを考えることで未来が見える
苦勞した分、必ず誰かの役に立てる



Ogata Shion

医学生の内面を育てる群大ならではの講義

最も印象に残っている講義は、1年次に必修の「医の倫理学」。医療倫理の基本問題や現場での事例を基に、教授や同級生と意見交換を行います。医療に携わる者にとって、現場に存在する問題点を見つけ、目の前の相手にとってより良い医療とは何なのか、考え続けることはとても重要です。与えられた知識をただ詰め込む勉強だけをしては、この力は身につけません。この講義では、見たこと・聞いたことの全てが考える手がかりであり、疑問の源です。こうした環境は、物事を捉える感性や考える技術を磨くことにつながりました。自分のこれからにつながる、有意義な講義でした。

群馬で医師を目指すならやっぱり群大と言える理由

本学に入って良かったと思うのは、上記の「医の倫理学」を受けられたこと。24時間使える図書館も魅力的です。インターネットで得られる知識や、ネット上で発表されている資料は数多くありますが、同じものでも書籍を見ながら、実際に自分の手を動かして見るのとでは覚えやすさが違います。また、将来県内で働きたい人にとって、本学で学ぶことには学生のうちから地元の現状を知ることができるという長所があります。

私の将来の目標は、人と直接関わり、自分にしかできない形で未来に貢献していくこと。子どもが好きなので小児科や産婦人科、広い範囲で診療ができる内科にも魅かれます。自分がどんな医師として生きていきたいのか、これからも考え続けます。

諦めないこと。努力は決して無駄になりません

自分がこうなりたいと思った結果が医師であるならば、どんな人にも道があり、目標を実現する方法はあります。大切なのは「なりたい」という強い希望と、その実現のために自分が今何をすべきなのかを真剣に考え、実行すること。自分が苦勞した分、自分の持っているものや、誰かの役に立つものは増えます。諦めたり、マイナスにばかり考えたりはしないでほしいですね。



Time Table

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|--------------|------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 | | | 医学統計学 | 専門教育科目 (分子病態学、 生化学など) | 動物実験学 |
| 2 | | 物理学実験 | | | |
| 3 | | | 医学情報処理 演習 | | 基礎遺伝学 |
| 4 | | | | | |
| lunch time | 昼休み | | | | |
| 5 | 英語 | | | | |
| 6 | | 専門教育科目 (分子病態学、 生化学など) | 専門教育科目 (分子病態学、 生化学など) | 専門教育科目 (分子病態学、 生化学など) | 専門教育科目 (分子病態学、 生化学など) |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| after school | サークル | | サークル | | |

坂口 裕太郎 さん 医学部で求められる総合力

● 医学部医学科6年
● 神奈川県立柏陽高等学校 出身

医学の進歩に欠かせない研究と臨床の両輪

Sakaguchi Yutaro



野球に没頭していた高校時代は、隙間時間に集中勉強

高校時代は隙間を活用して勉強時間を確保しました。朝4時半に起床し、朝練に向かう電車の中で予習。放課後練習の後、帰りの電車の中で復習を済ませました。その足で塾の自習室に向かって受験勉強。家では一切勉強しないと決め、11時には寝て身体を休めました。受験では医学部は理系ですが、入学すると総合力が求められます。理系科目に偏ることなく、文系科目もまんべんなく勉強することをおすすめします。

甘くない医学部。強い希望でモチベーションアップ

医学部の講義は非常にハイレベル。決して甘くはありません。これから医学部を目指す人に正直に伝えたい部分です。

専門分野になるとテストが多く、高校時代と同じ勉強方法では対処できないことが増えてきます。実は私は、2年でつまずいた経験があります。このことが、勉強方法や取り組み方を考え直すきっかけになりました。今は、つまずきを経験できて良かったと思っています。決して甘くはないカリキュラムだからこそ、絶対医師になりたい、研究者になりたいという強い希望やモチベーションが不可欠。それがあから踏ん張れるのだと思います。

責任の重大性からくる緊張感を忘れずに

初めて実習に出たときの緊張感は今でもハッキリ覚えています。この緊張感に慣れてはいけなと思っています。院内で白衣を着ていると、患者さんは実習生でも医師だと思ってしまうようで「先生」と呼びかけられることもしばしば。責任の重大性を感じると同時に、期待に応えられる存在にならなければと身が引き締まります。将来の夢は、子どものスポーツ障害をなくすために尽力できる医師ですが、実習やスポーツ障害を防ぐ研究の手伝いをするうちに、研究にも興味が出てきました。医学の発展には、臨床と研究の両輪が欠かせません。どちらも医師の力が発揮できる、魅力ある分野ですね。

Time Table

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|--------------|-------------------------|------|----------------|---------------|-----------|
| 1 | 回診 | 教授回診 | 回診 | カンファレンス(学生発表) | 回診 |
| 2 | | | | | |
| 3 | 病棟実習 | 手術見学 | 外来見学エコー実習 | 手術見学 | 外来見学エコー実習 |
| 4 | | | | | |
| lunch time | 昼休み | | | | |
| 5 | 専門外来見学 腹腔鏡シミュレーション実習 | 手術見学 | 透折見学 専門外来見学 | 手術見学 | 透折見学 |
| 6 | | | 病棟実習 | | レクチャー |
| 7 | カンファレンス | | | | 発表準備 |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| after school | | 部活 | アルバイト | 部活 | |

※泌尿器科選択実習の一例

「母校・群大のためなら」と、海外から戻ったばかりの忙しい中、時間を割いてくれた笠原群生先生。1992年、本学を卒業した笠原先生は、小児生体肝移植手術数世界最多という、日本が世界に誇る移植外科医。仕事のやりがいや本学ならではの素晴らしさ、本学医学部を目指す人々へのメッセージを聞いた。

笠原 群生先生

Profile

かさはら・むれお

医学部医学科 平成4年3月卒業
大学院医学研究科博士課程修了 博士(医学)
国立成育医療研究センター副院長
臓器移植センター長
群馬県立前橋高等学校出身



子どもの笑顔と成長を 間近で見られる喜び

私は、名前の如く群馬生まれ。循環器の医師であった父に憧れ、父の母校でもある群馬大学に入学しました。大学4年生でテニス部の朝練終了後にテレビをつけたところ、島根医科大学（現在の島根大学）で生体肝移植が成功したというニュースを聞き、初めて移植医療を意識しました。命の炎が消え入りそうになっている患者さんが、移植をすることで再び元気になる、そんな夢のような医療を学んでみたいと思っていたところ、移植外科の日本の中心である京都大学で臨床研究生のポストがあると聞き、真っ先に手を上げました。当時の私は臓器移植の知識も経験もなく、周囲との知識や能力の差に愕然としましたが、経験の差は努力で補うしかないひとたすら努力を続けました。

今は、東京都にある国立成育医療研究センターで肝臓や腎臓の悪い子どもの患者さんの臓器を移植しています。当センターには世界中から患者さんも研修の医師もやってきます。やりがいは、移植で元気になった子どもたちの成長を間近で見られること。こんな幸せなことはありません。今は月に2～3回、海外に出向いて、当センターで研修をした医師が自国で移植医療を展開できるよう手助け



エジプトでの患者診察

をしています。国際的な移植医療人を育成することにも、大きなやりがいを感じます。夢はこの世から移植を必要とする子どもの病気がなくなることです。

群大で学べたことで 今の自分がある

群大では生涯の友人がたくさんできました。壁にぶつかったとき、くじけそうになったとき、群大時代の友人の存在は大きな支えになっています。群大は、同級生同士、先輩と後輩、先生と学生と、人と人の距離が近いのがいいですね。だからといって、いつもベタリしているわけではありません。人との関係を含めて「規律ある自由」が群大にはあるように思えます。年に2度、講義で群大に行きますが、お互いを尊重し、思いやりながら付き合う雰囲気は昔から変わっていないと実感します。群大の卒業生と聞いただけで人と人の触れ合い方を大切にできる、人と深い付き合いができると思います。

人との付き合い、これは、医療を行う際もとても大切なことです。医療にはチーム力が欠かせません。人との良い関係を作って仕事をすることを、私は群大で学びました。2005年、一人で当センターに赴任しましたが、今ここでチームを作って、世界トップクラスの移植医療ができているのは、大学時代に仲間



インドネシア大学での手術指導

を大切にしながらやってきた経験が生きているからだと思います。人生で一番大切な時期を、群大で、素晴らしい仲間と過ごせたことは、今の自分の土台になっています。群大で学べたことで、今の自分があると思います。

大きな夢に向かって羽ばたいて

若いころに何かを一生懸命にやることは、将来に向かって飛び出すためにネジを巻くことだと思います。たくさんネジを巻けば、飛び出すときにぐんと遠くまで飛ぶことができます。

群馬大学医学部を目指す人には、ぜひ世界一の医師を目指してほしい。「なれない」とか、「無理だ」とか思うかもしれませんが、諦めないで努力していると必ず夢は叶います。若い人の目の前には、無限の可能性が広がっています。勇気を持って、頑張ってください。



上海大学での手術指導後

国立研究開発法人
国立成育医療研究センター
National Center for Child Health and Development



〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1

電話：03-3416-0181

FAX：03-3416-2222

URL <https://www.ncchd.go.jp/>

OB・OG Message



西村 俊夫 先生

Profile

医学部医学科 平成18年3月卒業
大学院医学系研究科博士課程修了 博士(医学)
群馬大学医学部附属病院産科婦人科 助教
桐朋高等学校(東京都)出身

取り上げた子どもの成長を喜べる産婦人科医ならではの喜び 患者さんの心に寄り添う優しい医療を目指す

大学4年生のとき、産婦人科医であり、本学で教へんを取っていた父が、講義の中で「産婦人科の領域は、内科、外科、心療内科など幅広い」と話すのを聞いて興味を持ちました。卒業後、目標だった専門医資格を取得して大学院に入学。研究を通して問題を細胞レベルから捉えたり、仕組みを理論立てて考えたりするようになり、患者さんへの説明の仕方が変わりました。進学前は、臨床を離れることに多少なりとも不安を感じていましたが、全くの杞憂でした。大学院で学ぶことで臨床領域の造詣が深まりました。

私がお世話になった病院は、難しい症状の患者さんが多かった分、お産を担当した子が元気に育っていると知ったときの喜びは一入。産婦人科医になって良かったと心から感じます。今は臨床の現

場に立ちつつ、助教として後輩の指導に当たっています。私自身が先輩からたくさんチャンスをいただき、医療スタッフとしての責任感や充実感を感じられるようになったので、私も後輩にいろいろな機会を作りたいと思っています。

仕事をする上で支えになっているのは患者さんから掛けられた「先生は優しい」という言葉。思い当たるのは、患者さんと目線を合わせるようにしゃがんで話を聞く私の姿勢。あの頃より医師としての経験を積んだ今、病気で気持ちが沈みがちな患者さんが医師に求めるのは技術や知識だけではないと心から思うようになりました。私の理想は、患者さんが感じてくれる優しさを持った医療人を育てること。それを実現するためにも、みんなを率いる存在になりたいですね。

OB・OG Message



栗山 裕子 先生

Profile

医学部医学科 平成22年3月卒業
大学院医学系研究科博士課程2年
群馬大学医学部附属病院皮膚科 医師
日本女子大学附属高等学校(神奈川県)出身

皮膚科医の高い専門性と女性医師の多さに魅力 医師を目指す女性にも進めたい大学と職場としての附属病院

研修医時代に結婚～出産を経験。今は大学院で学びながら、本学附属病院の外来と県内の病院で皮膚科医として勤務しています。周りの協力を得ながら、大学院での研究、外来診療と子育てを両方しています。医師を目指して医学部に入学した時は、今のような毎日を送るとは考えていませんでした。将来は母に子どもを見てもらいながら週に何日か勤務できれば、と思っていたのです。ところが、研修医として働き始めたときに母が他界。翌月に出産を控えていた私は一番の味方を失い、途方に暮れました。振り返ると、このことが転機になりました。同時に元気でいられる有難さを実感しました。

皮膚科医を選んだ理由は2つ。1つは女性が多い職場であること。結婚して子育てをしながら活躍している先輩もたくさんいて、女性が働きやすい環境だと

思ったのです。もう1つは診療内容。外来での診断や治療はもちろん、簡単なものなら外来で手術をすることもできる皮膚科の高い専門性に魅かれました。

患者さんの病気の発症や皮膚の状態にはその方々のライフイベント、例えば身内の不幸や介護の負担、就職などが影響されることが少なくありません。症状を通じて患者さんその人に向き合えるのは、やりがいの一つです。

本学は講義の質が高く、教授陣は学生の主体性を大切にしてくれる素晴らしい大学。尊敬できる先生や、公私に渡って最良のパートナーである主人に出会えたのも本学です。附属病院は先輩が道を開いてくれ、自然に協力し合う体制が整って働きやすい環境。医師を目指す男性にはもちろん、女性にもおすすめの大学であり職場です。



Message

● 保健学科長 村上博和

少子高齢化社会となった我が国においては、社会構造や生活習慣の変化に伴い、疾病・障害構造が大きく変化するとともに、介護問題をはじめ新たな保健医療的問題が多数生じています。国民の要望も多様化し、健康志向が高まり、生活の質の向上や健康寿命の延長が求められています。

しかし、我が国では医師、看護師をはじめとした医療人不足と保健・医療の地域格差が顕著となっています。一方、財政上人員を増やすことには制約があるため、保健医療人の資質を高める必要があります。また発展途上国では現場の保健医療人のみならず、教育者が不足しています。実は、我が国においても保健学教員が不足しています。よって、保健学マインドをしっかり持った保健学教育者の養成も急務です。このような社会的要請に応えるには、学部における高度な知識と技術を持った医療専門職の養成に加え、大学院における教育・研究を充実させ保健学各領域における研究者と教育者の養成が必要です。

そこで、保健学科は、保健学教育と研究の充実に向けて様々

な教育プロジェクトを立ち上げてきました。特に、保健学科設置以来継続していたチーム医療教育をさらに発展させるため、チーム医療教育の国内ネットワーク Japan Interprofessional Working and Education Network を構築しました。この活動が認められ、平成25年にはWHO Collaborating Centerに指定されました。保健人材育成分野では群馬大学が国内初です。

また、平成26年に行われた「ミッションの再定義」で、文部科学省により『全人的医療とチーム医療をキーワードに、確固とした倫理観と豊かな人間性を持ち、高度な技術と知識を備え、チーム医療のリーダーとなる人材を育成する。また、医療系の国立大学として充実した研究環境を活かし、保健学研究を推進する研究者や教育者の育成を積極的に推進する。』ことが認められました。この評価は、保健学研究を推進する優れた大学として認められたものです。

高度保健医療専門職や保健学研究者・教育者を目指す学生さん、ぜひ群馬大学と一緒に勉強しましょう。

- 国際的保健学研究の拠点形成
- 高度専門医療人の養成
- チーム医療教育の推進
- 地域包括ケアシステムの支援



保健学科

保健学科は総合的で先進的な保健学教育・研究を展開し、保健医療の専門職として、確固たる倫理観と豊かな人間性を持ち、社会的使命を果たすことのできる人材を育成します。

専攻構成

Fundamental Nursing



- 看護学
- 基礎看護学

看護学の入門及び健康で自立した生活を支える援助法に関する知識・技術と看護管理について学習する分野です。より積極的に有効な看護技法の研究開発を行い、教育—臨床実践の連携を目指しています。

Clinical Nursing



- 看護学
- 臨床看護学

成人期・老年期にある人々の健康増進、疾病・障害、終末期の看護について知識と技術を学習します。生活習慣病、がん看護、高齢者看護について研究を行っています。また、人々の心の健康を守る看護について教育・研究に取り組んでいます。

Maternal and Child Health Nursing and Midwifery



- 看護学
- 母子看護学

母性の発達、マタニティサイクル、出産の援助(助産)と母親支援について教育・研究に取り組んでいます。また、小児と家族の多様な健康ニーズに対応できるよう、多職種と連携を図った看護支援の教育・研究に取り組んでいます。

Community Health Nursing



- 看護学
- 地域看護学

国内での地域住民の健康増進や疾病予防に関する様々な保健活動、在宅で療養する人々や家族への看護支援、在日外国人医療及び国外での看護活動や国際看護協力などについての教育・研究に取り組んでいます。

Basic Laboratory Sciences



- 検査技術科学
- 基礎検査学

生物学、化学、物理学などの教養科目の知識を基に、臨床検査学の基礎を習得するための分野です。内容は、生化学、臨床化学、基礎生理学、免疫学、遺伝子学の教育と研究を行っています。

Clinical Laboratory Sciences



- 検査技術科学
- 応用検査学

基礎検査学で学んだ知識や技術を発展させ、臨床検査に応用する分野です。内容は、臨床生理学、微生物学、医動物学、血液検査学、病理組織学、細胞診断学の教育と研究を行っています。

Basic Physical Therapy



- 理学療法学
- 基礎理学療法学

主に運動器疾患とスポーツ障害の病態や理学療法について研究しています。また、介護予防や認知症のリハビリテーションにも積極的に取り組んでいます。

Clinical Physical Therapy



- 理学療法学
- 総合理学療法学

主に神経疾患、呼吸器疾患の病態や理学療法について研究しています。また、動作解析装置や加速度計などを用いた運動制御の研究にも積極的に取り組んでいます。

Basic Occupational Therapy



- 作業療法学
- 基礎作業療法学

障害を持った方々は、日常生活をすこやかに過ごすことが困難になります。この専攻では作業活動の視点から、日常生活をすこやかに送るために必要な筋や脳の働き、動作、行為、そして精神の働きなどを研究しています。

Applied Occupational Therapy



- 作業療法学
- 心身障害作業療法学

障害を持った方々が、快適で健康的な生活へ復帰するために、作業活動を治療的に展開する方法を修得します。身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害及び地域作業療法の領域における教育と研究を行っています。

Basic Sciences



- 医療基礎学
- 医療基礎学

学部では、教養教育科目や専門基礎・支持的科目を中心に、幅広く教育しています。研究は、生物学、生化学、分子生物学、神経科学、統計学、疫学、心理学、公衆衛生学、応用言語学と多岐に渡り、教員全員が大学院も担当しています。



群馬大学医学部は、発展途上の分野にも積極的に取り組み、深く掘り下げるとともにより実践的なプログラムを行っています。



- 保健学
- 全人的医療
- 高度専門医療人
- 専門看護師
- 臨床研究コーディネーター
- 細胞検査士
- チーム医療
- WHO協力センター
- 地域包括ケアシステム

Topic 1

WHO協力センターにおけるチーム医療教育の国際的リーダー育成 WHO協力センターの指定を受けた群馬大学で、さらに教育の充実を目指す

保健学科は、看護学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の4専攻で構成されています。全人的医療を担う高度医療人の養成を教育理念の基本におき、各専攻の専門教育とともに、チーム医療教育/多職種連携教育に力を注いできました。「チームワーク実習」はこの中核となる科目で、学内外約20施設の協力の下保健学科と医学科の学生が参加する実習で、2018年からは医療安全教育も行われます。

多職種連携教育ではWHO（世界保健機関）をはじめ国内外の機関や大学とも連携して

学生教育の向上を目指してきましたが、これまでの実績が認められ、2013年には群馬大学がWHO協力センターに指定されました。実行組織となる「多職種連携教育研究研修センター」が開設され、多職種連携教育の研究と研修を行っています。WHOとの連携を通して学生教育のさらなる向上を目指しています。

2010年には、多職種連携教育を学ぶ学生組織としてSIPECが設立され、学内での勉強会や講演会への参加などの活動の他、WHO本部や西太平洋事務局への訪問、学会や講演会での発表などを行なっています。2018年

9月にオークランドで開催される国際学会ATBH IXでSIPECの学生がこれまでの学習成果を発表します。これらの活動を通して、全人的医療を担い国際的に活躍できる医療人を育成しています。



Topic 2

群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー 文部科学省GP（特色ある取組）課題解決型高度医療人材養成プログラム

保健学科看護学講座は、平成26年度より文部科学省より補助金を受け【群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー事業】に取り組んでいます。これは、地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護が提供できる「在宅ケアマインド」をもった看護人材養成を強化するものです。

わが国は、世界に類をみないスピードで高齢化が進み、世界一の長寿国となりました。

超高齢少子多死社会に対応するため、病院中心から在宅中心の医療やケアへの移行が推進されています。住民が住み慣れた地域や自宅で、最期まで自分らしい生活が送れるように支援ができる人材が求められています。

全国的に先駆的な取り組みである本事業は、これらのニーズに合致したことであり、大学と県内の保健医療福祉の関係機関・多職種が一丸となって取り組みます。主な取

組み内容は、①1年次から「在宅ケアマインド」を養う学部教育改革、②大学院に「地域完結型看護リーダー養成コース」を開設、③実習指導者のための履修証明プログラム「地域完結型看護実践指導者養成プログラム」の開設です。これら卒前から卒業までの一貫した教育により、「在宅ケアマインド」をもって、地域のあらゆる場で切れ目のないケアを提供できる看護人材養成をめざします。



Topic 3

国際交流 国際感覚の向上と国際社会への貢献

保健学科は国際社会で活躍できる人材の育成を目指し、教員及び学生の国際交流を行うとともに、国際社会に貢献するために国際協力を行っています。ワシントン大学、ピュージェット・サウンド大学など米国の大学や、ニカラグア国立自治大学マナグア

校、モンゴル国立医科学大学、タイ王国ランシット大学及び大韓民国仁済大学とも交流し、相互の訪問を行っています。学生は、留学生と一緒に学ぶ中で国際感覚や、国際社会で必要とされるコミュニケーション能力を養っています。留学生にとっては母国

の発展に役立つ知識や技術を得る機会となります。また、モンゴルでの理学療法士養成のための教育支援など大学が行う国際協力として注目され、高く評価されています。このように、保健学科全体で国際交流・国際協力に取り組んでいます。



Topic 4

地域保健学リーダー

地域活動と教育との一体化を目指した大学院教育プログラム

大学院保健学研究科では設置当初より昼夜開講等社会人学生に配慮した教育を実施してきました。その結果、現在、博士前期課程の約6割、後期課程の約8割が主に保健医療機関で働く社会人学生という特徴があります。そこで、これまでの教育を発展させ、さらなる地域活動と教育との一体化を目指した新しい大学院教育プログラム「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」を構築し、平成19年から3年間文部科

学省大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）の支援を受けました。平成22年度以降も教育プログラムとして継続しています。具体的には、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、所属機関における研究課題を、所属機関と大学との共同で「地域保健学研究プロジェクト」として遂行します。学生はこの課程を通して、研究能力やリーダーとしての能力を体験的に修得し、大学院修了後は「地域保健学リーダー」として、

地域保健医療活動の推進や、大学との協力の促進における役割を果たすことが期待されま

す。平成29年度までに41名の学生が本プロジェクトの研究遂行者として認定を受け、地域社会で活躍しています。



Topic 5

大学院における専門職養成プログラム

専門看護師(Certified Nurse Specialist) 臨床研究コーディネーター (Clinical Research Coordinator)

高度化・専門分化が進む医療現場において、質の高い看護ケアを効率よく提供する専門看護師（CNS）の資格認定制度があり、資格をもつ専門看護師が病院や地域などで活躍しています。CNSになるには特定の専門看護分野の実務経験と大学院博士前期課程での学修が必要です。本学では、がん看護・慢性看護・老年看護と母性看護分野の専門看護師を養成する教育課程が認可され、CNSコースとして大学院教育を行っています。さらに、がん看護・老年看護分野は、専門看護師の発展型であるケアとキュアの融合を目指す高度実践専門看護師教育課程（38単位）の教育をしています。CNSコース修了生は日本看護協会による資格認定審査に合格してCNSの資格を得ることができます。平成30年3月までに本学の修了生37名（がん看護23名、老人看護8名、慢性疾患看護3名、母性看護3

名）が資格認定審査に合格しました。

新しい治療法や予防法を確立するための科学的根拠は、臨床試験をはじめとした臨床研究から得られます。臨床研究の中核拠点となっている世界の研究医療機関では、臨床研究コーディネーター（CRC）やデータマネージャー（DM）と呼ばれる専門職が活躍して、臨床研究や疫学研究が進められています。質の高い研究を行うには、これら専門職のなかでも高度な知識やスキルを身につけた人材を欠かすことができません。しかし、わが国ではこれらの指導的人材を育てられる教育機関はごくわずかです。群馬大学大学院保健学研究科では、平成13年の大学院設置当初から、臨床研究専門職の指導者養成のための講義や演習を行ってきました。また、実践的な演習を含み「CRC管理者養成コース」を開講しています。コース履修者には、「臨床研究プ

ロフェッショナル（臨プロ）」の称号が与えられます。平成30年3月までに、9名が修了し、称号が授与されました。

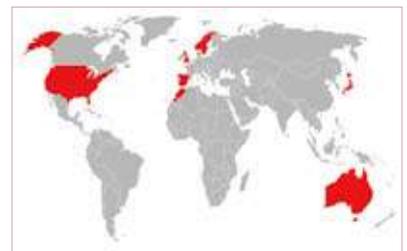


Topic 6

国際的保健学研究の推進

現在、保健学科ではグローバルレベルでの最先端研究の推進事業「就労女性疾病予防研究プログラム」が進行しています。保健学科の疫学専門家が、全国の看護職女性を対象に「日本ナースヘルス研究(JNHS研究)」という大規模就労女性コホート研究を運営し、遺伝的因子や生活保健習慣がどのように疾病発生に影響するかを調べてきました。JNHS研究が参加するInterLACE研究では、グローバルレベルの比較研究を行い論文発表するとともに、国際シンポジ

ウムを企画してJNHS研究の成果を世界に発信しています。「就労女性疾病予防研究プログラム」では、このJNHS研究と、米国ハーバード大学や豪州クイーンズランド大学などの女性コホート研究とグローバルな連携を強化して、遺伝的・環境的因子を調査解析し、就労女性のライフコースに合わせた疾病リスクを抽出して、今までにない先端的な個別化した予防法を提示しようとする新しい試みを行っています。



InterLACE研究に参加している国々(上図)と参加研究拠点の校章・シンボル(下図)
(InterLACE研究ホームページから
<http://www.interlace.org.au/web/Home.aspx>)

日進月歩の医療界において、研究活動と臨床は表裏一体。
先端研究と共に実践ができる教員がサポート。

保健学科教員



看護学専攻
基礎看護学

近藤 由香 准教授



基礎看護学を担当しております。リラクゼーション法、がん患者への緩和ケア技術、看護技術に関する研究に取り組み、よりよい看護を実践できるように貢献していきたいと思っております。

看護学専攻
基礎看護学

恩幣 宏美 准教授



看護実践能力向上に対する人材育成プログラムの開発について研究を行っています。また、妊娠糖尿病を経験した女性とその児の2型糖尿病予防に向けた、生活習慣支援教育プログラムの研究も行っていきます。

看護学専攻
基礎看護学

柳 奈津子 講師



看護における基礎的な技術——特に指圧・マッサージ、アロマセラピー、リラクゼーション法などリラクセスを促すための技術の効果の検証を行っています。また、リラクゼーション外来では、それらの技術を提供し指導しています。

看護学専攻
基礎看護学

辻村 弘美 講師



主な教育活動としては、基礎看護学演習や実習、コミュニケーションに関する授業を担当しています。また、異文化看護や認知症に関する研究なども行っています。皆さんの若々しく、そして力強いパワーをいただきながら、私自身も成長していきたいと思っております。

看護学専攻
基礎看護学

中村 美香 助教



1、2年生の基礎看護学の演習と実習を主に担当しています。研究テーマとしては看護管理学の中の看護職のキャリア形成やリスクマネジメントに関して関心を持ち取り組んでいます。

看護学専攻
基礎看護学

久保 仁美 助教



基礎看護学の演習と実習を担当しています。臨床の看護師・訪問看護師が行う清潔ケアなど、看護技術に関する研究に取り組んでいるほか、病院と地域をつなぐ退院支援についての研究を行っています。

看護学専攻
臨床看護学

岡 美智代 教授



生活習慣病患者における塩分制限や運動などの自己管理に関する研究を行っています。またエビデンスを活用した看護についても取り組んでいます。大学院では慢性疾患看護専門看護師の教育を行っています。
<http://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/>

看護学専攻
臨床看護学

二渡 玉江 教授



手術を受けるがん患者の意思決定、心理適応過程の支援に関する研究を行っています。同じ講座の神田教授とともに、がん看護専門看護師教育、がん看護研究会、外来看護相談を行い、教育と臨床の連携、研究成果の実践活用を進めています。

看護学専攻
臨床看護学

近藤 浩子 教授



こころとからだを健康にしていけるヒーリングの研究を行っています。これをストレスマネジメントや疾患を持つ人への癒し技法として活用してもらうために普及活動を行っています。精神看護の教育では、グループ療法や認知療法的アプローチに力を入れています。

看護学専攻
臨床看護学

大山 良雄 教授



臨床医学に関する講義を担当しています。糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病に代表される慢性疾患に対する予防や療養指導の研究に取り組んでいます。特に、複数の慢性疾患を有する患者さんへの効果的な療養指導を考えていきたいと思っております。

看護学専攻
臨床看護学

内田 陽子 教授



専門は高齢者のアウトカム評価と経済的評価、ケアの質改善。現場のフィールド調査を基本とし研究を進めています。大学や臨床現場の教育活動、地域との連携活動と多岐にわたっていきいきと楽しく、明るく、前向きに活動しています。

看護学専攻
臨床看護学

上山 真美 講師



老年看護学の講義や演習、実習を担当しています。膀胱留置カテーテル抜去後や排泄障害に対するケアプログラムの開発とその検証に取り組んでいます。また、高齢者への認知症等の介護予防や排泄障害・排便障害に対するケアの実践的な研究に取り組んでいます。

看護学専攻
臨床看護学

高橋 さつき 講師



腎臓病の患者教育普及に関する研究を行っております。患者さんがパソコンで腎臓病のことを学ぶeラーニング「腎臓ケアeラーニング講座」を開発し、Webで無料公開 (<http://plaza.umin.ac.jp/~jin>) しております。是非とも、ご覧ください！

看護学専攻
臨床看護学

坂入 和也 助教



精神看護学実習を担当しています。高齢者や発達障害児を対象とした動物介在活動（アニマル・セラピー）の実践・評価などを行っています。また、災害時の精神障害者の支援について、調査・研究を行っています。

看護学専攻
臨床看護学

塚越 徳子 助教



成人看護学演習と実習を担当しています。研究テーマは、がん患者・家族への看護支援です。特に、他疾病を抱えながら生活をするがん患者・家族に対する支援に関心があります。現在は、認知症状を持つがん患者・家族に対する看護支援について取り組んでいます。

看護学専攻
臨床看護学

菊地 沙織 助教



成人看護学の演習と実習を担当しています。研究テーマはがん患者の家族支援です。がんになったとしても、患者とその家族が自分らしく生活できるように支援を見出せるよう、研究に取り組んでいます。

看護学専攻
臨床看護学

井手段 幸樹 助教



成人看護分野の演習と実習を担当しています。研究テーマは慢性疾患患者における運動療法に関するものです。患者さんが自分自身の生活を病と共に豊かにできるように、取り組んで行きたいと思っています。

看護学専攻
臨床看護学

小山 晶子 助教



老年看護学の演習と実習を担当しています。高齢者が安全に、安心して生活できるための地域づくりや、身体疾患治療を受ける認知症高齢者へのケアに関する研究に取り組んでいます。

看護学専攻
臨床看護学

京田 亜由美 助教



成人看護学を担当しています。研究テーマは終末期がん患者さんの死生観や患者さん、家族、看護師間の生や死に関するコミュニケーションについてです。また、がん看護専門看護師として実践活動も行っていきます。

看護学専攻
母子看護学

常盤 洋子 教授



母親意識の発達に関する研究、出産体験の意味づけに関する研究、生涯学習の視点からとらえた助産師基礎教育と臨床の協働型継続教育プログラムの開発に関する研究を行っています。また、母性看護外来（看護専門外来）で妊娠・出産にかかわる悩みや不安に関する看護相談を行っています。

看護学専攻
母子看護学

篠崎 博光 教授



帝王切開の至適回数に関する研究、妊婦のシートベルト着用に関する研究、月経前緊張症と産後うつ病との関連に関する研究など周産期・ウイメンズヘルス関連の研究や多職種連携教育・協働に関する研究に取り組んでいます。

看護学専攻
母子看護学

金泉 志保美 准教授



医療依存度の高い子どもの在宅療養へ向けての支援や、在宅療養中の子どもと家族のQOL向上のための支援に関する研究に取り組んでいます。また、乳幼児期の生活リズムと健康問題をテーマとした健康教育を手がけてきています。

看護学専攻
母子看護学

牧野 孝俊 准教授



教育では、成長発達過程にある子どもの特徴やQOL向上を念頭に置き、小児看護学方法論、小児看護学方法論演習、小児看護学実習などを担当しています。研究では、「父親の育児不安やワークライフバランスの要因分析」や「児童虐待に対する世代間の認識の差異」、「慢性疾患児のストレスの要因分析」、「Interprofessional Educationにおける教育効果の分析」を行っています。

看護学専攻
母子看護学

國清 恭子 講師



妊娠・出産にかかわるメンタルヘルスに関心があり、現在は臨床現場で使用できる出産体験のとらえ方をアセスメントするツールの開発に取り組んでいます。また、母性看護外来で主に妊産婦の看護カウンセリングも行っていきます。

看護学専攻
母子看護学

深澤 友子 助教



母性看護学、助産学の演習や実習を担当しています。妊娠、出産、育児期における女性のメンタルヘルスに関心があり、現在は、早期産で児を出産した母親の母親意識に関する研究に取り組み、母子と家族を支えるためケアについて検討しています。

看護学専攻
母子看護学

小松 由利絵 助教



母性看護学・助産学の演習や実習を担当しています。妊娠・出産・育児期における母子とその家族への支援について取り組んでいます。また出産体験の振り返りの支援について研究を行っています。

看護学専攻
地域看護学

牛久保 美津子 教授



どんな病気や障害をかかえながらも、住みながら自宅で最期に安心して暮らせるための療養生活支援について、さまざまな角度から考え、取り組みます。

看護学専攻
地域看護学

佐藤 由美 教授



「地域での健康づくり活動の推進」、「生活習慣病予防の保健指導」、「在日外国人学校に通う子供の健康支援」など地域の健康課題に対し、保健師や地域住民等関係者と共同で実践的な研究に取り組んでいます。

看護学専攻
地域看護学

森 淑江 教授



看護分野の国際協力、諸外国の看護・看護教育制度、異文化看護、在日外国人・在外邦人への看護、災害看護などに関する研究を広く行うとともに、日本国内の国際協力を携わる人材や海外の看護職を対象とした研修も実施しています。

看護学専攻
地域看護学

石川 麻衣 准教授



「行政保健師の地区マネジメント」など公衆衛生看護の機能・特質に関する研究、行政に所属する保健師の活動および教育方法に関する研究、市町村及び保健所の保健福祉活動や健康危機管理に関する研究に取り組んでいます。

看護学専攻
地域看護学

桐生 育恵 助教



地域看護学の演習や実習を担当しています。子どもからお年寄りまで、幅広い人々を対象とする保健師の役割や支援技術が研究テーマです。現場のスタッフとともに、地域の健康づくりに取り組みながら、実践的な研究に取り組んでいます。

看護学専攻
地域看護学

松井 理恵 助教



地域看護学実習や演習を担当しています。子育て支援に関心があり、家族や地域で子育てを支えていくための研究に取り組んでいます。地域の保健師や住民の皆さんと共同しながら取り組んでいます。

看護学専攻
地域看護学

箱崎 友美 助教



文部科学省 GP 課題解決型高度医療人材養成プログラム【群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー】の専任として、医療施設と在宅・地域をつなぐことができる看護職の育成に携わっています。また、帝王切開で出産した女性の産後支援について検討していきます。

検査技術科学専攻
基礎検査学

輿石 一郎 教授



生体内で恒常的に産生される活性酸素種・活性窒素種は、疾患と言う観点からは悪玉と考えられていますが、一方で、健康時におけるホメオスタシスと言う観点からは善玉であるとする考え方が有ります。当研究室では、これらの分子種が、善玉・悪玉としてふるまう方向性を決定する要因を解明しようとしています。

検査技術科学専攻
基礎検査学

中村 和裕 教授



たんぱくが異常に折りたたまれ、その結果として神経細胞が障害を受ける脳の病気の研究をしています。生化学的な手法に加えて、工学的なアプローチによる治療戦略を考えています。

検査技術科学専攻
基礎検査学

安部 由美子 准教授



胎盤の炎症性疾患である絨毛膜羊膜炎は早産の主因で、児の慢性肺疾患や脳室周囲白質軟化症の発症リスクを増加させる疾患です。絨毛膜羊膜炎における増殖因子アクチビン、インヒビン、及びアクチビンの結合蛋白質フォリスタンチンの作用と産生調節機序を研究しています。

検査技術科学専攻
基礎検査学

柴田 孝之 准教授



当研究室では「光」を利用して、疾病に関与する生体分子を高感度かつ特異的に検出する技術や、細胞・組織中の特定環境を可視化する技術の開発を行っています。また、実際に臨床検体を使用して研究を展開し、新しい臨床検査法の創製を目指しています。

検査技術科学専攻
基礎検査学

時田 佳治 助教



生体内では恒常的に産生される種々の活性分子種（酸素や窒素や硫黄）の恒常性維持や生活習慣病発症の機序という基礎と、健診データをもとにした疾患発症リスク因子の解析という臨床の両面から新規マーカーの探索や生活習慣予防のための生活や食習慣を明らかにしていきます。

検査技術科学専攻
基礎検査学

鬼塚 陽子 助教



感染症の中で、特に寄生虫症に着目し研究しています。寄生虫は、どのようなメカニズムで感染し、症状を引き起こすのか、ヒトと寄生虫との相互作用を、分子生物学的及び細胞生物学的手法を用いて解析し、迅速診断や感染予防に役立てたいと考えています。

検査技術科学専攻
基礎検査学

笠松 哲光 助教



白血病などの血液疾患を対象として分子生物学的・免疫学的技術を用いた研究を行っています。疾患と宿主との関係を解明し、新しい検査法や診断法の開発を目指しています。

<http://ketsuken-gunma.kenkyuukai.jp/special/?id=16646>

検査技術科学専攻
基礎検査学

茂原 美穂 助教



神経疾患についての研究を培養細胞を用いて行っています。治療に繋がる研究を目指しています。

検査技術科学専攻
応用検査学

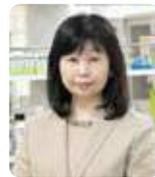
横山 知行 教授



心電図、肺機能、超音波、MRI、脳波などの生理機能検査を担当しています。現場のニーズに十分に答えられる臨床検査技師を目指すとともに、呼吸循環器に関する分子生物学から生理学までの幅広い研究を行っています。

検査技術科学専攻
応用検査学

嶋田 淳子 教授



当研究室では国際的感染症であるマラリアやトリパノソマを対象として分子生物学的研究を行っています。これらの病原体感染による宿主応答などについて分子レベル、細胞レベルで解析し、薬剤開発の研究も進めています。

検査技術科学専攻
応用検査学

齋藤 貴之 教授



専門は血液を中心とした腫瘍学です。研究は、分子生物学的アプローチにより疾患と宿主の関連を同定することを試みています。臨床の現場に役立つ研究を目指します。

<http://ketsuken-gunma.kenkyuukai.jp/special/?id=16646>

検査技術科学専攻
応用検査学

齊尾 征直 教授



授業では病理学を教え、細胞検査士養成コースも担当しています。「細胞の核形態の変化の仕組みの探求」「細胞診所見の各種解析」「病理組織検体における画像解析法の応用」等がテーマです。着任2年目です。研究室の仲間を大切に日々頑張っています。

検査技術科学専攻
応用検査学

松井 弘樹 講師



肥満や糖尿病が虚血性心疾患や動脈硬化、呼吸器疾患などに及ぼすリスクについて、ヒト、動物、細胞など様々な対象から分子レベルによる解析と、超音波検査やCT検査などの画像解析を合わせて検討することで、生活習慣病の予防へ向けた研究をしています。

検査技術科学専攻
応用検査学

松本 竹久 講師



病原細菌の同定検査や薬剤感受性検査などの臨床微生物検査を担当しています。当研究室では病原細菌を対象として、分子生物学的アプローチによる栄養要求性に関する研究や、新しい細菌培養法、細菌検査法の開発を目指した研究に取り組んでいます。

検査技術科学専攻
応用検査学

小林 さやか 助教



専門は病理組織・細胞診断学で、学部教育では標本作成技術や細胞診断学の実習を担当しています。また患者さんから採取された肺癌の組織材料を用いて、組織学的な変型を特徴づける遺伝子異常と核の形状変化との関連を研究しています。

検査技術科学専攻
応用検査学

後藤 七海 助教



ゲノム情報を守るのに重要な「DNA修復」と免疫担当細胞を制御する「サイトカイン」、「ケモカイン」を中心に研究しています。血液系のがんや自己免疫疾患との関連を解明し、新しい検査・治療戦略に繋げることを目指しています。

<http://ketsuken-gunma.kenkyuukai.jp/special/?id=16646>

理学療法学専攻
基礎理学療法学

白田 滋 教授



基本的動作能力について、三次元動作解析装置などを用いた基礎的な研究や臨床で使用できる評価尺度の開発を研究しています。また、高齢者の健康関連体力や転倒、介護負担感、社会参加などに関する調査研究にも取り組んでいます。

理学療法学専攻
基礎理学療法学

朝倉 智之 助教



臨床では中枢神経疾患の患者さんを中心に担当しています。教育については附属病院での臨床実習のコーディネート等で学生と関わっています。また研究活動として、三次元動作解析装置を用い健康者および患者の動作分析を行っています。

理学療法学専攻
基礎理学療法学

佐藤 江奈 助教



解剖学実習、生理学実習、臨床理学療法学実習、生活環境支援学実習、チームワーク実習、理学療法実習を担当しています。また、多職種連携教育にも取り組んでいます。研究は、変形性股関節症に対する器具療法に取り組んでいます。

理学療法学専攻
総合理学療法学

坂本 雅昭 教授



研究室では、1) スポーツ外傷・障害の理学療法、2) 中・高齢者及び障害者の健康評価と健康づくり、3) アスレティックリハビリテーションなどに関する研究を行っています。また、県内中学・高校サッカー、バスケットボール、野球大会等での理学療法サポートを行っています。

理学療法学専攻
総合理学療法学

渡邊 秀臣 教授



運動器の病気や外傷、スポーツ障害に対して最新の診断法や治療法の研究を行い、またチーム医療教育の成果について研究をしています。治療面では手術療法と術前、術後の理学療法を包括的に活用する運動器機能回復治療の研究をしています。

理学療法学専攻
総合理学療法学

山路 雄彦 准教授



臨床では主に切断者や肩関節疾患を担当し、教育では補装具（義肢や装具）、臨床運動学、生理学実習、臨床実習などを担当しています。研究では、生理的振戦をはじめとした生体信号解析や三次元動作解析装置による歩行やスポーツ動作の解析を行っています。

理学療法学専攻
総合理学療法学

山上 徹也 准教授



地域リハや介護予防を専門としています。特に研究では認知症高齢者に対するリハの評価方法や介入効果を研究しています。障がいの有無に関わらず、すべての人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる地域作りリハの視点で取り組んでいます。

理学療法学専攻
総合理学療法学

久留利 菜菜 助教



呼吸・循環・代謝に関連する内部障害のリハビリテーションやNCDs (Non Communicable Diseases) の分野に興味があり、学部では主にPBLIIIで内部障害分野の理学療法を担当し、呼吸代謝測定装置等を使った運動指標や予防についての研究を検討しています。また、学生のアメリカ研修の担当など国際保健の分野でも活動しています。

理学療法学専攻
総合理学療法学

中澤 理恵 助教



症例基盤型実習IIなどの運動器系の授業の実習を担当しています。また、成長期（特に中学生年代）のスポーツ傷害予防に関する研究を中心に、県内中学・高校サッカー及び高校野球大会など、スポーツ現場での理学療法サポートにも取り組んでいます。

作業療法学専攻
基礎作業療法学

三井 真一 教授



遺伝子操作マウスを用いて精神発達障害の病態や発症機構に関する研究を行っています。また、夫婦や家族の絆が損傷神経の回復に及ぼす影響についても分子・細胞レベルで研究しています。これらの成果は精神疾患や神経再生の診断治療法開発の基盤となります。

作業療法学専攻
基礎作業療法学

菊地 千一郎 教授



専門は臨床精神医学です。脳機能イメージングを用いた認知神経科学研究を行っています。研究を通じて、よりよい治療法の開発につなげていきたいと思っています。国家試験に合格するだけでなく、後の臨床に役立つような精神医学の授業を心がけています。

作業療法学専攻
基礎作業療法学

李 範爽 教授



学部教育では作業療法の中でも主に身体障害領域の講義・実習を担当しています。また、脳機能画像法や運動生理学的手法を用いて、日常生活を営む上で必要な、感覚、認知、運動機能について研究しています。

作業療法学専攻
基礎作業療法学

池澤 麻衣子 助教



細胞内の膜小胞輸送に関するタンパク質について、その局在や機能の解明をテーマに、研究を進めています。主に、マウスの各臓器や培養細胞を用いて、実験を行っています。

作業療法学専攻
基礎作業療法学

下田 佳央莉 助教



注意などの認知機能を高める、効果的な作業療法の実践を目的に、脳機能計測装置などを用いた研究を行っています。加えて、がん患者さんにおける作業療法の役割についても、探究し始めた所です。主な担当授業は、チームワーク実習です。

作業療法学専攻
基礎作業療法学

野口 直人 助教



学部教育では基礎作業学を主に担当しています。また頸椎症や脊椎疾患による物品の把持やリーチ動作などの上肢の運動学的特性について研究を行っています。

作業療法学専攻
心身障害作業療法学

山崎 恒夫 教授



専門は臨床神経学で、主として細胞生物学的アプローチを用いた認知症の研究を行っています。今後は認知症によって生じる高次脳機能障害の分野にも研究のフィールドを広げようと考えています。

作業療法学専攻
心身障害作業療法学

今井 忠則 准教授



学部では、精神保健・メンタルヘルス領域における作業療法の専門科目を主に担当しています。大学院では作業療法理論、作業科学に関する講義を担当しています。作業参加と健康・well-beingとの関連を実証的に明らかにするべく調査研究に取り組んでいます。

作業療法学専攻
心身障害作業療法学

十枝 はるか 講師



発達障害の2次障害の予防につながる早期支援の在り方について研究しています。発達障害をもつ子どもが薬物療法といった医療の対象となる前に、適切な保育・教育環境による発達支援を提供する地域社会の構築に、作業療法士だからこそ貢献できると考えています。

作業療法学専攻
心身障害作業療法学

土屋 謙仕 助教



専門領域は身体障害の作業療法で、人間らしく生きる権利の回復、全ての人が自分らしく生活できるように取り組んでいます。また、脳卒中後抑うつ状態、認知症者のリハビリテーション、ライフスタイルと認知機能に関する研究に携わっています。

医療基礎学
医療基礎学

林 邦彦 教授



医療従事者からなる大規模女性コホート研究 (JNHS) で、日常生活や保健医療習慣がどのように健康に影響を与えるかを、経時的に調査しています。また、子宮内膜癌患者コホート研究 (JEMS) など、集団を対象とした疫学という研究法で予防や治療の評価を行っています。

医療基礎学
医療基礎学

大西 浩史 教授



生体制御に関わる細胞シグナルの分子メカニズムと機能について、中枢神経系や生体のストレス応答を対象とした基礎研究を行っています。生命システムの姿を明らかにすることで、より健康で安全な暮らしの基礎を形づくることを目指します。

医療基礎学
医療基礎学

大庭 志野 教授



食生活や喫煙等が、生活習慣病の発症や死亡のリスクにどのような影響を及ぼしているか、疫学的な解析を行っています。また、疾病予防の知識の普及と行動変容の過程について研究しています。疫学方法論と生物統計学の保健専門職への普及に務めています。

医療基礎学
医療基礎学

村田 祥子 准教授



心理学と教育学の立場から、行動指標・生理指標を用いて人間の適応過程に接近を試みています。適応過程には学習機構が深く関わると捉え、主要な課題として記憶、学習の領域を位置づけています。

医療基礎学
医療基礎学

川島 智幸 准教授



専門は応用言語学です。日本人英語学習者が非母語話者の話す英語と接することによる心理的影響の研究や、非母語話者英語を用いたリスニング教材の開発を行っています。また、英語を使えるようになる学習法の研究にも取り組んでいます。

医療基礎学
医療基礎学

上宮 英之 講師



原始的な昆虫類が、どのような発生をするかを調べて、それを元に昆虫を含む節足動物がどのように進化してきたのかということを研究しています。担当授業科目は、生物学Ⅰ、情報、昆虫の科学、動物の分類と進化、虫の名前を調べてみようです。

医療基礎学
医療基礎学

豊村 暁 講師



脳波 (EEG) や機能的磁気共鳴画像法 (fMRI) を用いて、ヒトの運動制御に関する神経科学研究を行っています。特に「吃音 (きつおん)」を調べています。事象関連電位、ニューロフィードバック、情動と視線行動などを現在の計測テーマとしています。



Department of Nursing

看護学専攻

教育特徴

医療・保健の現場で看護の専門性を発揮できる能力と国際看護協力が実践できる能力を育成します。

生命、個人を尊重し、的確な看護を提供するために、看護の専門的知識や技術を学びます。病気を予防する健康教育、健康回復への支援、終末期ケア、人間のライフサイクル各期における看護、地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護を習得し、高度・専門化した保健医療福祉に対応できるような教育を行います。

看護学専攻の教育目標は、在宅マインドをもち保健医療の専門職として、健康問題を有する人々に接する真摯な態度と生涯にわたる自己学習の習慣を体得することにあります。学生が将来、保健医療福祉におけるチームの中で看護の専門性を発揮し、ケアの調整やマネジメントにリーダーシップを発揮でき、さらに、国際化の進展に対応して世界の看護に視野を広げ、国際看護協力が実践できる人材を育成します。看護師または保健師、助産師になるために、看護学の基本的知識を理解し、科学的でクリティカルな思考能力と看護の実践に必要な基本技術を修得することを目指しています。

看護学専攻のカリキュラムは、看護師、保健師、助産師の各専門領域における知識や技術が効率よく修得できるように工夫されています。具体的には、①人間の身体的・精神的側面、人間を取り巻く社会環境についての学習、②看護学の基礎理論や方法論の学習と看護実践能力の修得、③人間のライフサイクル各期にお

ける健康の保持増進を図るための知識と援助技術の修得、④看護活動の場の拡大に対応した看護実践能力の修得、⑤健康障害者の看護を実践する知識と援助技術、態度の修得、⑥国や地域レベルの健康課題の解決とシステムづくりに関わる看護実践能力の修得から構成されています。先駆的に臨床と連携して看護専門外来を開設・運営し、卒後のキャリア開発の支援も行っています。



Department of Laboratory Sciences

検査技術科学専攻

教育特徴

高度な知識と技術を備え、国際的な活躍ができる臨床検査技師を育成します。

日進月歩で発展する検査技術科学分野の専門知識や技術を学び、検体検査、生理機能検査、病気早期発見のための検査、遺伝子検査、画像解析などをマスターして、高度・専門化した医療に対応できるような教育を行います。

検査技術科学専攻では、「全人的医療」・「チーム医療」・「バイオサイエンス」をキーワードに、確固とした倫理観と豊かな人間性をもち、高度な技術と知識を備えた臨床検査技師育成を目指しています。チームワーク実習を通じて、チーム医療の重要性を指導すると共に、遺伝子検査や画像解析などの最新検査技術の教育に力を入れています。

また、高度な臨床検査学の教育・研究体制を支える人材を育成するため、卒業研究に1年間を当て、各教員の指導のもと研究を行い、論文作成を行っています。これにより、十分な研究手法及び研究的思考法を習得し、将来研究職・教育職につく人材育成が可能です。また、国際社会で活躍できる人材育成のため、英語論文の輪読などを通して、英語による口頭・紙上発表の基本を学びます。さらに、国際的視野を広めるため、ワシントン大学医学部臨床検査学科との交換留学も実施しています。また、本学では細胞検査士養成コース（3～4年次）を開設しており、修了者は4年次に同資格認定試験（日本臨床細胞学会）の受験資格が得られ

ます。

このように、本専攻では日本のみならず、世界で指導的役割を担える臨床検査技師の育成を行っています。



教育特徴

新しい機能回復の理論、技術の研究・開発能力を育てていきます。

専門職としての態度や実践的な技能の修得が円滑に図れるよう、科目の枠を超えた教育を心がけ、机上での学習だけではなく、臨床での体験や実習などを通じた能動的な学習への支援を重視しています。

少子・高齢社会という現代の日本において、疾病構造の変化や医療・福祉サービスの多様化、グローバル化に伴い、理学療法士に求められる社会的ニーズも拡大しています。その社会的ニーズに応えるためには、人間や社会を幅広く捉える知識と実践的で効果的な技術が求められています。理学療法学専攻では、医学や人間学等の知識をもとに、理学療法に必要な疾病と障害の成り立ちやその実態についての基礎的知識を学び、機能や障害を評価する方法、障害に対する運動療法、物理療法、補装具療法などの適応理論と臨床応用を学びます。また、運動器系理学療法学、神経系理学療法学、発達障害理学療法学、内部障害系理学療法学などの専門的な理学療法の理論と技術を習得し、急性期から地域や在宅での理学療法、健康管理やスポーツ分野での理学療法など、幅広い分野における理学療法について学びます。さらに、海外の理学療法に触れられる機会として、アメリカやモンゴル国での研修プログラムや留学生との交流にも力を入れています。そして、世界の視野でこれからの理学療法学の発展に貢献できる新しい理論や

治療技術の研究・開発能力を修得し、臨床・教育・研究の分野において活躍できる人材の育成を目指しています。



教育特徴

心と体に障害を持つ人々の生活支援の知識と技術を学びます。

健康機能を制限された人に対する専門的な判断力や接触態度を養い、作業活動の活用、評価・治療・援助及び研究に必要な知識と技術を学び、臨床実習で専門職業人としての学習を統合します。

作業療法は、心身の健康機能を制限された方々が、自立生活に必要な日々の生活技術や社会的適応能力を修得して、快適で個性的な生活を営めるように援助することを目標とします。また、作業活動を治療・援助の手段として、対象者の方々のニーズを満たし、心身の健康機能や生活の質の向上を目指すサービスです。

作業療法学専攻では、基礎分野として、科学的思考の基盤や人間と生活に関する教養科目を学び、人間理解を深めます。専門基礎分野として、人体の機能・構造や心身機能の発達、疾病や障害とそれらの回復過程、保健・医療・福祉とリハビリテーション理念を学び、専門性の基礎理解を深めます。専門分野として、作業療法過程の構築、評価、治療援助、地域生活への適応、臨床実習及び研究に必要な知識と技術を学び、専門職業人としての学習を統合します。

卒業生は、保健・医療・福祉など実践の職場で活躍するほか、大学院博士課程（前期・後期）に進学しています。作業療法士には、

近年、地域社会での障害予防や健康増進、特別支援教育の担い手としても期待が高まっています。



保健学科の特色

教育の特色

- 保健学の研究者・教育者の養成
- 高度専門医療人の養成
- WHO協力センターにおける国際的チーム医療教育
- アメリカやアジアの大学との交換留学
- 群馬一丸で取り組む在宅看護の大学一大学院一貫教育
- 大学院におけるがん看護、老人看護、慢性疾患看護、母性看護の4分野の専門看護師養成

- 大学院における臨床研究コーディネーターの養成
- チューター制度と学生相談員制度

研究の特色

- 保健学研究・教育センターによる国際的保健学研究の支援
- WHOから指定された「多職種連携教育の研究・研修を行う」世界唯一の専門機関（WHO協力センター）

紫村 明弘 さん

● 医学部保健学科看護学専攻3年
● 埼玉県立熊谷高等学校 出身

改革が進む教育機関で学べるメリット

男性ならではの強みを生かして、夢は管理職的立場の看護師



Shimura Akihiro

進む改革で伸び盛り、最先端の安全教育が受けられる群大

「厳格だった祖父が病室で笑顔だったのは、看護師さんが良くしてくださったから」と母から聞かされ、病床にいる患者さんを明るくできる看護師の素晴らしさに心を打たれました。本学を選んだ理由は2つ。1つは、塾の先生から「改革が進んでいて上向き。最先端の安全教育が学べる」と聞いたこと。もう1つがチューター制度でした。教員1人につき、学生5～6人の担当となり、さまざまな指導や助言をしてくれます。進路の相談にも乗っていただけるので、この先、ますます頼りにさせていただく機会が増えそうです。

夢は知識と技術をアグレッシブに駆使するフィールドで働くこと

看護師は医師のお手伝いではなく、医師とは違う目的を持った専門性の高い職業。実習先で先輩看護師が、患者さんと世間話をしているように見えて、その中からたくさんの情報を収集しているのを知って驚きました。将来は、手術室か救急科で働くのが夢。どちらも患者さんの年齢層が幅広く、症状も損傷部位もさまざま。的確な判断力、広く深い知識、高度な技術をアグレッシブに駆使したスピーディな対応が求められます。実際に救急科を経験した教授から「いろいろな症例に触れられるので、その後、どの診療科に行っても対応できた」と聞いたことも影響されました。突然まち中で「医療関係の方いらっしゃいますか？」というシーンに出くわしたときも役立てそうですし。ドラマの見すぎですか（笑）。

男性であることが生かせる、看護師という職業

看護師の男性は前より増えてきたようですが、まだまだ大多数が女性。きめ細やかさでは女性にはかなわないかもしれませんが、看護師は男性であることが十分に生かせる職業だと思います。先輩たちや先生の話聞いて思うのは、看護師は体力勝負。力のいる仕事も少なくありません。そのような面をカバーできるのも男性看護師。出産というライフイベントがない分、フォローに回れることも多いと思います。そこを強みに、将来は全体を見渡せる立場の管理職について患者さんからもスタッフからも頼られる存在になりたいですね。



Time Table

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|--------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|--------------|
| 1 | | 医療生命倫理 | 国際看護学 | 成人看護学 方法論演習Ⅰ | 災害看護学 |
| 2 | | | | | |
| 3 | 疫学 | | 精神看護学 方法論 | 成人看護学 方法論演習Ⅱ | |
| 4 | | | | | |
| lunch time | 昼休み | | | | |
| 5 | 在宅看護学 方法論 | 地域保健医療 推進論 | 看護管理学 | 地域看護学 方法論Ⅲ | チームワーク 実習 |
| 6 | | | | | |
| 7 | 老年看護学 方法論演習 | 小児看護学 方法論演習 | 母性看護学 方法論演習 | 地域看護学 方法論演習Ⅰ | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | 地域看護学 方法論演習Ⅱ | |
| 10 | | | | | |
| after school | | 部活 | アルバイト | アルバイト | 部活 |

富山 飛鳥 さん

● 医学部保健学科検査技術科学専攻3年
● 群馬県立中央中等教育学校 出身

検査の原理が身につく丁寧な講義

留学生との触れ合いを通じて広がる世界

Tomiyama Asuka



好きを仕事に、生まれ育った群馬に貢献

中等教育学校の4～5年生のとき、人の身体に関わる生物と実験が多い化学が好きになり、両方に関われる職業として臨床検査技師を目指すようになりました。本学への進学を考えたのは、地元で働いて役に立ちたかったから。オープンキャンパスで顕微鏡を使って組織や細胞を見せてもらったことで、自分のやりたいことをハッキリと自覚することができました。

手作業で進める検査で深まる知識

好きな科目は血液検査学や微生物学。検査というと機械を使って結果を出すイメージが強いかもしれませんが、本学では顕微鏡を使って赤血球や細胞の中の核の形を自分の目で確認しながら進める、アナログ的な方法も多く学びます。他大学で検査技術科学を専攻している友だちから「群大は指導が丁寧だね」とうらやましがられることもあります。地味かもしれませんが、自分の手を動かして一つひとつプロセスを踏んで進めていくと、原理そのものがよく分かるし、理解度も深まります。また、チーム医療について学ぶことができるチームワーク実習も本学の特色の一つです。

私は部活でオーケストラに所属していますが、チーム医療もそれに似た部分がある気がします。大切なのは異なる役割をもつ人たちがお互いを理解し合い、同じ目標に向かって持っている力を出し切ること。1人が優れているだけでは、美しいハーモニーを奏でられません。患者さんファーストで、他専攻のみんなと協力しつつ自分の力を出し切れる有意義な実習にしたいです。

海外の大学とも積極交流へ

私はワシントン大学からの留学生をサポートする交換留学委員を務めています。留学生と一緒にランチをしたり出かけたりする中で、海外の大学のことも教えてもらうこともあります。同じ検査技術科学でも、日本とアメリカではできることの範囲や内容に違いがあったり、逆に専門用語が同じだったり、発見があって楽しいですよ。本学には海外留学の制度があるので、心惹かれるものがあります。自分の気持ち次第で、海外まで可能性が上げられるのも本学ならではの良さですね。

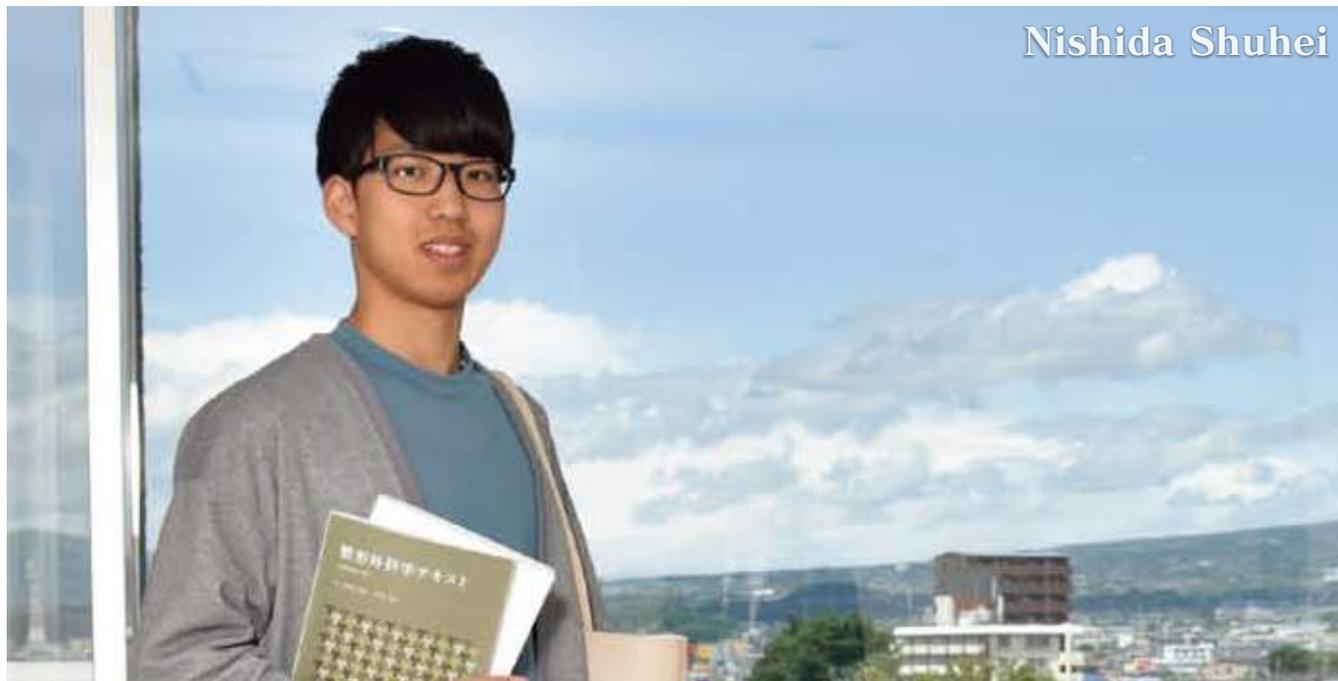
Time Table

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|--------------|-----------------------|---------|------------------------|---------|----------|
| 1 | | | | | |
| 2 | | | 臨床化学Ⅱ/ 臨床化学実習Ⅰ | 保健行政論 | 細胞診断学Ⅰ |
| 3 | 臨床生体機能学Ⅲ/ 臨床生体機能学Ⅳ | | | 検査管理総論 | RI検査技術学 |
| 4 | | | | | |
| lunch time | 昼休み | | | | |
| 5 | 病原生物学 | | 臨床生体機能学Ⅴ/ 臨床生体機能学実習 | 病態組織細胞学 | チームワーク実習 |
| 6 | | | | | |
| 7 | 病原生物学実習 | 生体防御学実習 | | 遺伝子検査学 | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| after school | 部活 | アルバイト | アルバイト | 部活 | |

西田 修平 さん

● 医学部保健学科理学療法学専攻3年
● 静岡県立駿河総合高等学校 出身

縦横のつながりの強さが、楽しく充実あるキャンパスライフの鍵
本学なら叶う理学療法士兼研究者という夢



Nishida Shuhei

雰囲気の良いキャンパス、首都圏内という立地条件も魅力

6歳から水泳を続けており、将来スポーツに関わる仕事に就きたいと考えていました。そんな時、担任の先生から理学療法士という職業があると聞いて興味を持ちました。本学を初めて訪れたのは高3の夏。オープンキャンパスで案内をしてくださった先輩たちの仲の良さに緊張がふっと解けました。実際の講義で行う検査に挑戦し、本学で勉強をしたいと思うようになりました。実家のある静岡県から比較的近い首都圏にある点もメリットでした。

興味のあることから楽しい。本学で知った「学ぶ楽しみ」

講義は2年生から少しずつ専門科目が増え、断然楽しくなります。面白かったのは運動学。立ち上がるときに関節や筋肉がどう反応するか、装置を使ったり手で触れたりしながら明らかにしたときは、自分の知りたかったことを学べる喜びを実感しました。

理学療法学専攻は少人数で、目指している方向が同じなので、みんなすぐに仲良くなります。みんなで集まってテスト勉強をしたり、グループ発表の準備をしたりするのは楽しいです。理学療法学専攻は縦のつながりも強く、全学年でよく集まります。先輩が実習に行く前に「いってらっしゃい会」を開いたり、実習から帰ってきた先輩から話を聞く機会もあります。「大変だった」と言いつつ、頼もしさが増した先輩たちを知っているので、これから始まる実習が楽しみ。理学療法士が患者さんと関わっている現場を見られることにも、とても興味があります。

再生医療に関わることを夢見て、今の目標は大学院進学

将来は、再生医療にリハビリテーションとして関わるのが夢。ケガや病気で損傷した部分に自分の細胞を移植して組織の再生を促せる、そんな可能性のある再生医療の分野にリハビリの専門職として携わりたい。そのために、大学院に進学してもっと深く学びたいと思っています。目標は誰にでも優しく安心感のある医療人。本学には「こうなりたい」と憧れる先生や先輩がいっぱいいる、恵まれた環境でもあると思います。



Time Table

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|--------------|-------|----|--------------|---------------|----------|
| 1 | | | 臨床理学療法学 III | 整形外科学 II | |
| 2 | | | | | |
| 3 | | | | 神経内科学 II | |
| 4 | 臨床運動学 | | | | |
| lunch time | 昼休み | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | 臨床理学療法学 I・実習 | 臨床理学療法学 II・実習 | チームワーク実習 |
| 7 | | | | | |
| 8 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| 10 | | | | | |
| after school | 部活 | 部活 | アルバイト | | アルバイト |

佐野 翔平 さん

- 医学部保健学科作業療法学専攻3年
- 群馬県立桐生高等学校 出身

見学実習で知った作業療法士の職域の広さ 利用者さんとしっかり向き合い信頼される存在に

Sano Shouhei



2Dでは分からない細かな部分まで確認できる群大ならではの講義

高校時代、部活でお世話になっていたトレーナーから効率のよい筋肉の動かし方や鍛え方を教わり、運動が持つ科学的な面に興味を覚えました。そして、食事や入浴などの日常生活から各人の趣味に至るまで、人が生き生きと過ごすために身体と心をサポートする作業療法士を目指すようになったのです。オープンキャンパスで先輩たちの仲の良く穏やかな雰囲気に触れ、良い大学だなと思いました。少人数制で指導が手厚いことも決め手になりました。大学の講義は、自分の興味があることばかりで楽しいですね。特に神経内科学や生理学などメカニズムを学べるものが好き。作業療法学専攻の講義で、本物の臓器などに触られるのは本学だけではないでしょうか。2Dでは分からない細部まで確認でき、勉強になります。

先輩の真摯な姿勢で知った作業療法士の真価

2年生の見学実習は気づきの連続でした。先輩が利用者さんを思って、心地よくストレスなく過ごせるようにと食事のシーンを動画に撮ってアプローチを考えていたり、原始反射をヒントにコミュニケーションを編み出していたり、工夫を重ねる姿に感動。また、行動が生まれる元となる感情を的確に判断できなければ、正しいアプローチはできないこともよく分かりました。想像力を働かせて相手を思いやることは大事ですが、そのことと自分本位で相手に感情を押し付けて勝手に判断してはいけないことにも気づかされました。見学実習だけでこれだけ多くの気づき。作業療法士の世界の奥深さを垣間見た気がしました。

先輩作業療法士の姿に重ねる自分の未来

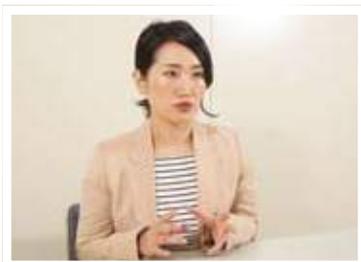
夢は、利用者さんのことを本気で考えられる作業療法士になること。忙しくても利用者さん一人ひとりとしっかり向き合い、十分な会話を持って、信頼して本音を話してもらえる存在になりたいですね。実習先で見た先輩たちの姿を忘れず、深い知識と確かな技術を身につけ、早く追いつけるようになりたいと思っています。

Time Table

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|--------------|--------------|---------|-----------|------------|------------|
| 1 | | | | 整形外科Ⅱ | |
| 2 | 作業療法評価学 | | | | |
| 3 | 実習 | | 精神医学Ⅲ | 神経内科学Ⅱ | 身体障害作業治療学Ⅰ |
| 4 | | | | | |
| lunch time | 昼休み | | | | |
| 5 | 地域作業療法学概論/各論 | | 日常生活活動学 | 精神障害作業治療学Ⅰ | |
| 6 | | | | | チームワーク実習 |
| 7 | 老年期障害作業治療学Ⅰ | 作業治療学実習 | 日常生活活動学実習 | 発達障害作業治療学Ⅰ | |
| 8 | | | | | |
| 9 | 総合能力評価学 | | | | |
| 10 | | | | | |
| after school | アルバイト | アルバイト | | アルバイト | サークル |

OB・OG Message

医学部保健学科看護学専攻



鈴木 禎子 さん

Profile

医学部保健学科看護学専攻 平成16年3月卒業
大学院保健学研究科応用看護学ユニット
母性看護学専門看護師コース修了
産科婦人科館出張佐藤病院 助産師
茨城県立水戸第一高等学校出身

新しい命の誕生で家族の笑顔に出会える喜び 群大ならではの恵まれた教育環境で夢を叶えて

助産師として働き始めたのは、都内の周産期母子医療センター。深刻な症例や大変な分娩が多く、役割を果たせないと助産師としての自分の存在意義がないと思いつつ、先輩の指示を受けて動くのに必死でした。忘れられないのは、新人時代に起きた夜勤中の出来事。元気だった妊婦さんが急変してしまったのです。医師や先輩助産師がテキパキと対応するのを間近で見て、正しく迅速な判断と確かな技術が救命につながることを実感。医療職の責任の重さをひしひしと感じました。

その後、育児で悩む友人から母乳ケアができる80代の助産師の存在を聞き、技術を受け継げるのは今しかないというUターン。県内の産婦人科病院で勤め始めながら、その手法を学びました。年間100人を超えるお産を手伝ううちに、身体と口が自然に動くようになりました。

陣痛の起こり方や痛み方、胎児心拍数モニターの判読など総合的な判断力もついてきました。新しい家族の誕生と喜びご両親やご家族の顔を見たり、子どもの成長が書かれた年賀状を受け取ったりするとうれしく、やりがいを感じます。

複数の病院でいろいろな学校を卒業した看護師を見て思うのは、本学出身者は振り返る習慣と、学ば姿勢が身につけているということ。教員陣の指導が浸透しているなどと思います。また、在学中は気づかなかつたのですが、本学は実習環境に恵まれていると思うようになりました。臨床、研究、教育の3機関が同じ敷地内にある大学は決して多くありません。卒業後に大学院で研究を学び続けることもできます。群大ならではのメリットを生かして、大きく羽ばたいてほしいですね。

OB・OG Message

医学部保健学科検査技術科学専攻



佐藤 幸 さん

Profile

医学部保健学科検査技術科学専攻 平成27年3月卒業
大学院保健学研究科博士前期課程修了
桐生厚生総合病院中央検査部 臨床検査技師
群馬県立前橋女子高等学校出身

国試や臨床に直結する学部の講義。細胞検査士を目指す人にも おすすめ 社会人になってますます「群大で良かった」を実感

検査技術科学専攻は、3年生で細胞検査士養成コースを選択できます。細胞やがん研究に興味がある人にはおすすめ。また本学の講義は、国試にも臨床にも直結。充実していて無駄がありません。臨床検査技師を目指すには、最高の大学です。

検査は治療の入口です。検査の結果は、これからの診断や治療に直結することが多いので、臨床検査技師の責任は重大。就職してから、検体の先にいる患者さんを強く意識するようになりました。この検査で患者さんのご家族、暮らしが変わることがあるかと思うと、気が引き締まります。私が携わっている細胞検査は、結果が白黒ははっきりしているとは限りません。ドクターから意見を求められたときは、根拠を持って説明する必要があります。医学の世界は日進月歩。常に新し

い情報を収集しなければいけません。大変なことが多く、華やかではありませんが、医療に欠かせない重要な職種。自分の仕事が確実に役立っていると実感でき、十分なやりがいを感じています。

群大で良かったと思うことは数えきれないほど。総合大学だからいろいろな学科の人と知り合えるし、海外の大学との交換留学も盛ん。学科では縦横の関係が密で卒業後もつながりが持てるので、分らないことを教え合うことも。人前で話すのも英語も得意ではありませんでしたが、大学院では英語での論文発表を経験し、自分の殻を破ることもできました。将来の夢は、得意分野を持って周りから「任せて安心」と言われる臨床検査技師。大学院での経験を生かして、積極的に発表も続けたいと思っています。

OB・OG Message

医学部保健学科理学療法学専攻



中澤 里沙 さん

Profile

医学部保健学科理学療法学専攻 平成26年3月卒業
大学院保健学研究科博士前期課程修了
医療法人五紘会東前橋整形外科病院
理学療法士
栃木県立鹿沼高等学校出身

大学院で身についた理論的な考え方や根拠を元に説明する力 可能性無限大の理学療法士。産婦人科領域での活躍が夢

卒業後、整形外科に勤務しました。最初の3年間は外来リハビリ、その後は病棟に移って術後リハビリを担当しています。医師の指示のもと、退院という目標に向けて患者さんの状態を把握し、気持ちも汲みながらリハビリ計画を立てています。うれしいのは、患者さんの状態が良くなり、ご本人やご家族から喜んでいただくこと。患者さんが望む「～したい」という夢を叶えるお手伝いができ「ありがと」と言っていたり、退院後も生活の中でリハビリが定着していると聞いたりできるとうれしいですね。

理学療法士になって5年目。今でも、先輩たちを見ると知識、技術、信頼関係の築き方など勉強になることばかりです。あらゆる面で学びの毎日。目標となる先輩たちが近くにいるのは、大き

な励みになります。

そんな先輩たちに近づきたいと、卒業後、3年目に大学院に進学。先行研究を読み解くことや、自分の研究を進めるうえで理論、根拠を元に説明する力や深く考える力が身につきました。以前から興味があった、産後女性の腰痛の実態調査にも参加。産婦人科の医師や看護師、助産師など、普段接点のない分野の専門職と関わりが持てたことは大きな財産になりました。今でも研究室に顔を出していますが、こういうつながりが持てるのも本学ならではのメリットです。

将来の夢は、産婦人科領域で理学療法士として仕事をする。理学療法士が活躍できるフィールドは、まだ開拓されていないだけでもっともっと多方面に広がっていると思うんです。

OB・OG Message

医学部保健学科作業療法学専攻



藤井 亮太 さん

Profile

医学部保健学科作業療法学専攻 平成28年3月卒業
大学院保健学研究科博士前期課程修了
JCHO群馬中央病院 作業療法士
愛知県立豊橋東高等学校出身

患者さんが笑顔でその人らしく暮らせるプラン作成 土台をつくるのは、群大で大切な仲間と過ごした楽しい時間

大学を卒業後、病院で作業療法士として働きながら大学院に進学。この春、晴れて博士前期課程を修了しました。入学したばかりのころは、大学院に進むことは考えていませんでした。卒業研究に取り組んだり、実習に行ったりするうちに自分の力不足を感じ、もっと知識を増やしたい、論文の読み方や研究の仕方を知りたいと思って進学を希望。学びながら働くのは大変でしたが、とても貴重で濃い時間が過ごせました。情報収集の仕方や研究結果を探るスキルもアップ。研究で疑問を明らかにできるようになったことで、見方が変わり、患者さんに提供するプログラムの質も上がりました。卒業後も研究室には顔を出しています。現場で生まれた疑問を解決できる有難い存在です。

就職して3年目。勤め始めたころと比

べると、先の見通しが立てられるようになったし、精神面や認知面、身体面からも正確にアプローチできるようになりました。現場に出て、大学での学びが基礎になっていると実感。作業療法士になるには、さまざまな道がありますが、将来を考えるなら進学先は慎重に選んだ方がいいですね。私は本学で学べて本当に良かったと思っています。個性豊かな教授陣、少人数制できめ細かい指導、総合大学だからこそ築ける幅広い人脈。仲間との楽しい思い出。どれも私の宝物です。

現場でプログラムを作るときに大切にしているのは「患者さんが笑顔で生活できること」。それには自分が楽しいと思える経験をしていなければ作れません。本学で過ごした楽しい日々は、患者さんを笑顔にするプログラムの礎となっています。

■ 医学部準硬式野球部



医学部準硬式野球部は週3回主に荒牧キャンパスの野球専用グラウンドで活動しています。春秋には北関東大学リーグに参加し、夏には医学部のみで行う大会に参加しています。学年、学科問わず仲が良く、その中で確かなチームプレイが培われています！

経験者、未経験者、マネージャー大募集です！ぜひ見学に来てください！



■ Flow Orchestra



私たちFlow Orchestraは昭和キャンパスで唯一オーケストラを行なっている団体で、初心者経験者問わず楽しく活動しています。毎年12月のクリスマスコンサートでは、群大病院で入院している患者さんの癒しになれるような演奏を行なっており、医療者を目指す学生にとっても非常に良い経験になっています。



昭和キャンパス サークル

※その他、荒牧キャンパスにも多彩なサークル活動があります。

スポーツから芸術、ボランティア、医学部ならではのサークルまでバラエティに富んでいます。

■ **運動部** El Bolos (ボウリング) / Et's (バスケットボール) / Get's (サッカー) / Let's Met's (野球) / Vit'z (ダブルダッチ) / 合気道部 / 弓道部 (医学科) / 弓道部 (保健学科) / 剣道部 (医学部) / 硬式テニス部 (医学部) / ゴルフ部 (医学部) / サッカー部 (医学部) / 柔道部 / 準硬式野球部 (医学部) / 水泳部 / スキー部 (医学部) / ソフトテニス部 (医学部) / 卓球部 (医学部) / バスケットボール部 (医学部) / バドミントン部 (医学部) / バレーボール部 (医学部) / バレーボール部 (保健学科) / フットサルサークル (医学部) / ラグビー部 (医学部) / 陸上部 (医学部) / ワンダーフォーゲル部

■ **文化部** AAA☆Kids (ボランティア) / ELMO (グループ体験学習) / e∞gg (自主ゼミ) / Flow Orchestra / Fore-Bridge Orchestra (FBO) / FORS (国際医療ボランティアの会) / Guit's (アコースティックギター) / LEADS (ボランティア) / MD-PhD勉強会 (ド学連) / origin (折紙研究会) / Pico (合唱) / Voice Cream (アカペラ) / 医学部★ダンスサークル (M★DC) / 囲碁将棋部 / 映画研究会 / エレクトーン部 / 軽音楽部 (医学部) / 写真部 (医学部) / でんでんむし (医学部、手話) / 天文部 / 東洋医学研究会 / ピアノ部 / 美術愛好会 / ビリヤード部 / ボードゲーム倶楽部 / マンドリンソサエティ / モダンジャズ研究会 (医学部) / 野草を食べる会 / 夢のわたらせなないろ号 (ボランティア)

COMMITTEE 学生会

学生会は、医学科及び保健学科の全学生により構成される組織です。年に2回「教職員との懇談会」を開催し、大学生活をより良いものとしていくため、大学施設に関すること、授業・カリキュラムに関すること等について意見交換を行っています。その他、新入生への大学生活に関するアドバイス、部活・サークルのとりまとめ等も行っています。

COMMITTEE 医学祭 実行委員会

2年に1度昭和キャンパスで開催される群馬大学医学祭は、学年・学科を超えた交流や大学周辺地域の方々との交流を目的とし、医学部ならではの様々なイベントが企画されます。

■ 医学部バドミントン部



医学部バドミントン部は、学内の運動部の中では最も大規模であり、医学科・保健学科共に活動しています。初心者の方が7～8割を占めているため、初心者の方でも気軽に入部し、バドミントンを楽しめます！大会で試合が全くできないということもないので、誰もが練習の成果を発揮する場を持てます。大会以外にも、バーベキューやスキー合宿など楽しいイベントも沢山あります！一緒に充実した大学生活を送りませんか？



■ Guit's (アコースティックギター)



わたしたちGuit'sは、アコースティックギターで弾き語りや、アコギを複数使ったセッションをしています。初心者から経験者まで所属し、部員同士楽しく活動しています。また、月1回ライブや夏の合宿を通して、日々の練習の成果を披露したり、充実した活動を行うことが出来ます！活動場所は昭和キャンパスですが、教育学部、社会情報学部、理工学部の学生も所属しているので、交友関係も広がります。ぜひ一度足をお運びください！



オープンキャンパス

昭和キャンパス

■ 対象：高校生・中学生・保護者等

開催日 **7月26日(木)** 医学科
8月7日(火) 保健学科

荒牧キャンパス

■ 対象：高校生・中学生・保護者等

開催日 **7月8日(日)**、**8月17日(金)**
群馬大学オープンキャンパス「GU' DAY」



※詳細やお申込みは、群馬大学ホームページ <http://www.gunma-u.ac.jp/> をご確認ください。

① 群馬大学総合情報メディアセンター図書館部門 医学図書館



医学図書館では、国内外の医学・医療系専門書13万冊と約3,600タイトルの学術雑誌を所蔵し、7,000タイトル以上の電子ジャーナルを利用できます。



ラーニングcommons
グループで相談しながら学習できるスペースです。可動式テーブルとホワイトボードがあり、自由に組み合わせて利用できます。



パソコンコーナー/セミナー室
PubMed、医中誌 Web などの医学文献データベースを利用し、国内外の医学情報を検索できます。レポートの作成にも利用できます。



閲覧室
閉館後も24時間利用できるサービスを提供しています。いつでも必要なときに資料を見ることができます。閲覧席は256席あります。



ライブラリー「患者さんのこころ」
「良医養成のための体験的・実践的専門前教育」を支援するために設置されました。闘病記・介護記・ホスピス・医療事故・医療倫理関連の図書があります。

② 生体調節研究所



生体調節研究所
内分泌・代謝学分野における国内唯一の基礎医学研究所です。生体調節系の制御機構や、その異常による疾患、特に糖尿病、肥満症など生活習慣病の成因・病態の解明を目指しています。



研究室
内分泌・代謝学共同研究拠点として、研究者コミュニティが要望する創出基盤技術・リソースを共同利用に供出し、高水準の研究成果を世界に向けて発信しています。

③ 重粒子線医学センター



重粒子線によるがん治療を行っています。

④ 生体情報ゲノムリソースセンター



遺伝子工学の中心である組換え DNA の実験・研究技術の普及と、専門研究者の教育・養成などを行う学内共同利用施設です。

⑤ 刀城会館



医学部同窓会（刀城クラブ）の募金により建設された多目的施設です。緑にかこまれたキャンパスの南西にあり、学会、講演会、研修会、セミナー、入学・卒業行事などに利用されています。

⑥ RI研究棟



放射性同位元素を利用して、ごく微量の血清中ホルモンを測定するラジオイムノアッセイ法などを行う施設です。

⑦ 医学科・大学院医学系研究科



基礎医学棟
解剖学、病理学、法医学など、基礎医学の研究・教育を担当する教員の研究室があり、医学の基礎研究が行われています。隣接して基礎医学を学ぶ教室や実習室があります。



臨床研究棟
内科学、外科学などをはじめとする臨床医学を担当する教員の研究室があります。附属病院での診療と並行して臨床分野での研究が行われています。



⑧ 保健学科



保健学科中央棟・西棟
理学・作業療法学専攻の施設・教員研究室、大講義室などが配置されています。



保健学科・新棟
看護学専攻の施設・教員研究室が配置されています。また、ミレニアムホール、中講義室・大学院講義室などが配置されています。



共用施設棟
検査技術科学専攻の施設・教員研究室、医療基礎学の教員研究室、一部理学療法学専攻の施設及び教員研究室、さらに事務部が配置されています。また、医学科関連の施設も配置されています。



ミレニアムホール
21世紀のスタートに合わせて建設されたことから、有為な医療人を輩出する意義を込めて命名されました。講義・セミナー・講演などに使われています。



臨床生体機能実習室
専門科目分野の一つである、エコー、肺気量測定装置、心電計など画像診断学分野の実習が行われます。



⑨ 生協



カフェテリア
一日の大半を大学キャンパスで過ごす学生生活。不規則になりがちな食生活から寛ぎの時間も生協がバックアップ。



食堂
何と言っても「安い」「美味しい」「早い」が生協食堂のセールスポイント。もちろん栄養計算はばっちり。



購買部
日常雑貨、文房具、そして専門書まで購買部には何かとお世話になります。

⑩ 黒梅ホール



黒梅恭芳群馬大学名誉教授の名を冠した黒梅ホールは、医学科学生の学習環境を整備するために平成25年2月に新設されました。主に6年生の自習室として利用されています。

⑪ ゆめのご保育園



一般幼児と病児が対象で、本学教職員の利用を主としています。

⑫ 石井ホール



石井英男群馬大学名誉教授の名を冠した石井ホールは、医学部キャンパス内の質の高い交流・学習空間の集合体として計画され、コミュニケーション、学習、リラクゼーションの場となっています。

⑬ 群馬大学医学部附属病院



群馬大学医学部附属病院は、「患者さん中心の医療を推進する」という基本理念の基に、医療を受けられる皆様の権利を尊重しながら、最高最良の医療を提供することを目指しています。



受付ロビー
毎日多くの患者さんが病院には訪れます。受付から診療、薬剤処方、精算まで一連の医療活動を合理的なシステムが支えています。



薬剤耐性菌実験施設
本邦で唯一の薬剤耐性菌に関する専門的研究施設です。社会的に大きな問題になっている細菌が薬剤に対して耐性を獲得するしくみを遺伝学的、分子生物学的に研究しています。



プロジェクト棟
大学外組織との共同研究をはじめとする様々な医学領域の研究プロジェクトを行う建物です。



実習棟顕微鏡実習室
実習棟では、顕微鏡を使った実習などをはじめとする基礎医学の様々な実習が、最新の設備を使って行われています。



診療室
病気との闘いは患者さんと医療従事者との共同活動です。徹底したインフォームドコンセントに基づいて計画的な医療を進めています。



手術室
外科的な処置が必要になる患者さんも多くいます。附属病院で最新の技術と機器を駆使し多くの実績を築いてきました。

群馬大学の教育ポリシー

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

～このような人を求めています～

<入学者に求める能力・資質>

- 群馬大学の理念、教育の目標に賛同し、本学の教職員と共に学術研究の成果を地域に還元し、豊かな地域社会・国際社会の創造に貢献していく意欲にあふれ、以下の能力・意欲を持つ人を探しています。
1. 高等学校の教育課程についての総合的な理解と大学教育を受けにふさわしい基礎学力がある。
 2. 専門分野を学ぶ上で必要な基礎知識と強い探究心、コミュニケーション能力を持っている。
 3. 主体的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持っている。
 4. 知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む意欲がある。
 5. 高い志と豊かな発想力を持ち、未来を切り開く夢と情熱を持っている。
 6. 地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持っている。

<入学者選抜の方針・方法>

群馬大学は、本学で学びたい学生に対し、その多面的な能力を評価し選抜するために、多様な受験機会・入学試験を提供しています。また、本学の国際化推進基本計画に基づいて、海外からの留学生を積極的に受け入れる方針の下、受験機会を提供します。

本学の教育の目標、求める能力・資質に合致する学生を選抜するために、一般入試(前期・後期)の他に、特別入試としてAO入試、推薦入試、帰国生入試、社会人入試、私費外国人留学生入試、3年次編入入学試験等の入学試験を実施します。本学の入学試験では、それぞれの学部・学科・課程の専門・特性に合わせて、大学入試センター試験、個別学力検査、実技等試験、調査書、活動履歴、面接、小論文等を組み合わせて、総合的に合否を判定します。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

～このような教育を行います～

<教育課程編成と教育方法>

全人的な協働体制の下、教養教育と専門教育の融合を図り、幅広く深い教養、豊かな知性と感性、総合的な判断力、専門分野の基礎的能力を育成するため、学生の潜在能力を最大限引き出せる教育課程を編成し、実施します。本学の基本理念及び教育の目標を達成するために、本学の教育課程(カリキュラム)は以下の方針で編成されています。

1. カリキュラム・ポリシーを具現化するカリキュラム・マップに従った系統的な教育と、授業科目の目標・内容・教育方法・達成度(成績)評価方法等について詳述されたシラバスに基づいた教育を実施し、アクティブ・ラーニング等の学生の自主的な学習意欲を促す教育、授業時間外自己学習や学修の振り返りを促す教育等を幅広く行う。
2. 学士課程教育においては、全学共通の教養科目、学部別科目(専門基礎科目、一部の学部で開設)、及び専門科目、加えて学部独自の教養教育科目を、互いの融合を図りながら編成する。
3. 全学共通の教養科目は、学士力の育成の基礎となる教養基盤科目と、幅広く深い教養・総合的な判断力・豊かな人間性の涵養につながる教養育成科目の二つの科目群から構成される。個別の領域の知識を学ぶのではなく、それらを統合していく考え方の修得及び各学問分野に共通の思考・判断・表現法の修得につながる教育を行うことにより、学生が自らの教養と主体性を構築していくことを促し、また外国語も含めた汎用的技能の基盤を培い、アイデンティティの確立した知識人としての考え方ができる人材を育成する教育を行う。
4. 専門教育を学ぶ上で必須となる基礎的知識や技能の修得を目的に、高校教育と大学における専門教育との円滑な接合を助け、その分野の基本的リテラシーについて学ぶ教育を行う。また、専門分野に関連する分野についての基礎的理解と新しいアイデアを引き出すことに役立つ知識・技能の修得を図り、専門分野の知識・理解・技能の質の更なる向上を目指す教育を展開する。
5. 専門科目においては、次の能力の養成に向けた教育を行う。
 - (1) 専門分野の内容、社会的意義と限界を深く理解し、他者に説明・表現できる能力
 - (2) 専門分野に關係する諸分野についての基礎的理解があり、客観的な評価ができる能力
 - (3) 自らの専門分野の視点から現代世界が直面する諸変化の特性・特質を理解し、生起する諸課題について探究し、課題解決に実践的に取り組んでいくことができる能力

<学修成果の評価>

シラバスに記載の達成度(成績)評価方法に基づいて行います。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

～このような人材を育てます～

<卒業認定・学位授与の条件>

1. 以下の学修達成目標及び所屬する学部・学科・課程が定める学位授与の要件を満足していること。
2. 所定の年限在学し、かつ所屬する学部・学科・課程が定める単位を修得していること。

<学修成果の目標>

専門的学識、技能

1. 所屬する学部・学科・課程の専門分野において求められる専門的学識・技能を修得し、現実の諸課題に対してその活用ができる。幅広い教養、学際性
2. 人間社会、歴史・文化、自然等についての幅広い教養と学際的理解に基づいて、様々な問題に対して多面的・総合的な判断ができる。論理的思考力、コミュニケーション力
3. 論理的思考力とコミュニケーション能力を持ち、社会で生起する問題に対し主体的に取り組む意欲を持っている。社会人としての自覚、国際性
4. 自然との共生を基盤とした豊かな人間性と広い視野及び社会的倫理観を持ち、社会から信頼され国内外で活躍することができる。

医学科の教育ポリシー

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

～このような人を求めています～

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることをふまえ、医学生として、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって自己研鑽に励むことができる人

1. 豊かな感受性、奉仕の精神を備え、医師としてふさわしい資質を身に付けることを目指して、不断の努力を積み重ねられる人
2. 医療、医学研究、医学教育もしくは医療行政などの分野において、社会に貢献することへの志と強い信念を持っている人
3. 本学科の教育内容を理解するために必要な総合的基礎学力を十分に備えている人

<入学に際し必要な基礎学力>

特に日常的な学習が十分に行われていることが望ましいのは、国語と英語である。専門科目を学ぶために必要となるのは、数学では、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bであり、理科では、受験科目にかかわらず、物理(物理基礎を含む)、化学(化学基礎を含む)、生物(生物基礎を含む)である。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

～このような教育を行います～

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽する力が付く教育

1. 自分をふりかえり他者を思いやる心が育ち、コミュニケーションを通して相互理解を図る態度が身に付く教育
2. 自然科学、医学、医療、人間と社会に関わる知を習得し、それを実践でいかす力が身に付く教育
3. 新たな課題にも対応できる問題解決能力が身に付き、リサーチマインドが育つ教育
4. 生涯にわたって社会貢献と自己研鑽に努める意欲が育つ教育

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得した、次のような者に学士の学位を授与します。

医学と医療が自然科学の上に成り立ち、かつ社会の中で人を対象として行われるものであることを理解し、科学的知(Science)、倫理(Ethics)、技能(Skill)の3つの面(SES)にわたって生涯自己研鑽を続けることができる者

1. 医師にふさわしい倫理観と責任感を有し、医療チームの中で医師として適切な行動をとることができる者、他者と信頼関係を築ける者
2. 医師、医学研究者、医学教育者又は医療行政担当者となるために必要な知識を身に付けるとともに、新たな課題にも対応できる問題解決能力を修得した者
3. 医学知識に裏打ちされた臨床と研究の能力を修得し、患者により良い医療を提供する能力と、医学や医療の発展に貢献する意欲を備えた者

保健学科の教育ポリシー

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

1. 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2. 本学科での学修を通して、学士(看護学・保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3. 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4. 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5. 看護師・助産師・保健師・臨床検査技師・細胞検査士、理学療法士、作業療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

1. 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2. 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3. 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4. 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5. 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

1. 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

～このような教育を行います～

知性と行動力を備えた人間性豊かな保健医療人材の育成を目指し、次のような教育を行います。

1. 全人的医療の担い手としての人間性の涵養と、専攻分野に必要な基礎力の育成を図る教育
2. 専門分野では基礎から臨床に亘る階層的知識の積み上げを図るとともに、先端の保健医療の学習にも配慮する教育
3. 保健医療の担い手としての主体的思考・行動力と豊かな感性を持つ人材育成を図る教育
4. チーム医療の担い手としての意識と、そこで必要な能力の育成を図る教育
5. 保健医療の諸課題に対応できる地域的視点と国際的視野を持つ人材育成を図る教育

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

～このような人材を育てます～

所定の年限在学し、かつ所定の単位を修得し、各専攻のディプロマ・ポリシーが規定する学識と能力を持つ次のような者に学士の学位を授与します。

1. 保健医療の中核を担う専門職業人となるために必要な知識と技術を備え、人間の尊厳を尊重心を持つ者
2. 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持つ者
3. チーム医療を担う自覚を有し、関係する人々との相互理解と円滑な協働関係が築ける者
4. 保健医療の諸課題に対し、多面的視点からの柔軟な思考、確かな判断と対応ができる者

看護学専攻

入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

1. 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2. 本学科での学習を通して、学士(看護学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3. 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4. 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5. 看護師・助産師・保健師・教育・研究者を育成する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

1. 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2. 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3. 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4. 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5. 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

1. 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

～このような教育を行います～

<教育の目標>

1. 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
2. 基礎的学識・知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けられる教育
3. 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
4. チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
5. 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
6. 看護師国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育
7. 助産師及び保健師コース受講者については、助産師及び保健師国家試験受験に必要な知識と技術を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

1. 初年次を中心に編成された、教養基盤科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育により、いろいろな考え方を学ぶことで、看護専門職のバックグラウンドとしての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2. 専門基礎・支持科目では、保健医療の基礎・在り方を学ぶことで、看護専門科目を学ぶ、実践していくための授業を展開する。
3. 教養教育及び専門・基礎支持的科目を基盤として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。
具体的には、専門科目では、
 - Ⅰ. 看護学の基礎を学ぶ。
 - Ⅱ. 対象や場に応じた看護学を学ぶ。
 - Ⅲ. Ⅰ、Ⅱを発展・統合する。という形で、講義・演習・実験・実習を行い、専門分野での実践力を養う。

<教育内容・方法>

1. 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各科目
2. シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3. シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の奨励
4. 実践力を養うための臨地実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて、1学期に1回、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

1. 所定の年限在籍し、かつ看護学専攻に定められた単位を修得した者
2. 看護師に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者
3. 助産師及び保健師コース受講者については、助産師及び保健師に必要な知識と技術を修得した者

<学修成果の目標>

保健医療・福祉におけるチームの中で看護の専門性を発揮し、ケアの調整やマネジメントにリーダーシップを発揮でき、さらに、国際化

の進展に対応して世界の看護に視野を広げ、国際看護協力実践できる人材になること。

具体的には、

1. 全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
2. 医療の基礎となる、人間と生活・社会の理解や論理的・科学的思考を高める学問などについて修得していること。
3. 看護学分野での研究に必要な手法及び思考法の基礎を修得していること。
4. 看護学の対象となる人間のライフサイクル、人間理解を深める心理学・社会学の基礎理論や看護過程の方法論などの専門的知識と、看護実践能力を修得していること。
5. チーム医療を担う一員であることを認識しながら、看護活動の場の拡大に対応した看護実践能力を修得していること。
6. 国際的な視野を持ちながら、国や地域レベルの健康課題の解決とシステムづくりに関わる、看護実践能力を修得していること。
7. 助産師・保健師コースでは助産師・保健師に必要な知識と技術を修得していること。

検査技術科学専攻

入学受入方針(アドミッション・ポリシー)

～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

1. 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2. 本学科での学習を通して、学士(保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3. 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4. 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5. 臨床検査技師・細胞検査士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

1. 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2. 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3. 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4. 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5. 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

1. 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

～このような教育を行います～

<教育の目標>

1. 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
2. 基礎的学術力(知識、技能、態度、創造的思考力)を身に付けられる教育
3. 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
4. チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
5. 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
6. 臨床検査技師国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育
7. 細胞検査士養成コース受講者については、細胞検査士資格試験受験に必要な知識と技術を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

1. 初年次を中心に編成された、教養基礎科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2. これを基礎として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

<教育内容・方法>

1. 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
2. シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3. シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の奨励
4. 実践力を養うための臨地実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学期に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

1. 所定の年限在籍し、かつ検査技術科学専攻に定められた単位を修得した者
2. 臨床検査技師に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者
3. 細胞検査士養成コース受講者については、細胞検査士に必要な知識と技術を修得した者

<学修成果の目標>

保健医療及び医療の基礎となる生命現象に対する知識・理論を理解し、検査技術科学分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身に付けていること。

具体的には、

1. 全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
2. 医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学、生化学、解剖学などについて、その基礎を修得していること。
3. 検査技術科学分野の新たな発展に必要な研究手法及び研究的思考法の基礎を修得していること。
4. 臨床検査技師に必要な検体検査、生理機能検査、病気の早期発見のための検査、遺伝子検査、画像解析などの基礎的・専門的知識と技術を修得していること。
5. チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
6. 国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。
7. 細胞検査士養成コースでは細胞検査士に必要な知識と技術を修得していること。

理学療法学専攻

入学受入方針(アドミッション・ポリシー)

～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

1. 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2. 本学科での学習を通して、学士(保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3. 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4. 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5. 理学療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

1. 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2. 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3. 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4. 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5. 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

1. 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

～このような教育を行います～

<教育の目標>

1. 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
2. 基礎的学術力(知識、技能、態度、創造的思考力)を身に付けられる教育
3. 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
4. チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
5. 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
6. 理学療法士国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

1. 初年次を中心に編成された、教養基礎科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2. これを基礎として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

<教育内容・方法>

1. 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
2. シラバスに詳述されたカリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3. シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の奨励
4. 実践力を養うための臨地実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学期に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

1. 所定の年限在籍し、かつ理学療法学専攻に定められた単位を修得した者
2. 理学療法士に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

保健医療の基礎知識・理念を理解し、理学療法学分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身に付けていること。

具体的には、

1. 全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
2. 医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学、解剖学などについて、その基礎を修得していること。
3. 理学療法学分野での新しい理論や治療技術の研究・開発力の基礎を修得していること。
4. 理学療法法の理念を理解し、障害に対する評価方法と、その障害に

対する運動療法、物理療法、生活環境支援などの介入方法の基礎的知識と技術を修得していること。

5. チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
6. 国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。

作業療法学専攻

入学受入方針(アドミッション・ポリシー)

～このような人を求めています～

<人材育成の目標>

1. 豊かな見識を身に付け、人間の尊厳を尊重し、全人的医療を担う人材を育成します。
2. 本学科での学習を通して、学士(保健学)に求められる知識、技能、態度、創造的思考力を身に付けた人材を育成します。
3. 将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を持ち、地域や国際社会での保健医療の諸課題に広く対応できる人材を育成します。
4. 保健医療の現場においてチーム医療を担う人材を育成します。
5. 作業療法士となることを通じて、高度化・専門化する保健医療専門職の次世代のリーダーや教育・研究者を育成します。

<入学者に求める能力・資質>

1. 柔軟な発想、みずみずしい感性、高い意欲を持っていること。
2. 他者とのコミュニケーションが円滑にできること。
3. 理系課題に対して、論理的な思考を行い、他人に説明できること。
4. 文系課題に対して、自らの考えを交えて要約して他人に説明できること。
5. 英文課題に対して、自らの考えと併せて他人に説明できること。

<入学に際し必要な基礎学力>

1. 各入学者選抜の出願要件に定める科目について履修又は履修見込みであること。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

～このような教育を行います～

<教育の目標>

1. 全人的医療の担い手として必要な基礎力を身に付けられる教育
2. 基礎的学術力(知識、技能、態度、創造的思考力)を身に付けられる教育
3. 保健医療の担い手として、将来に向け自らを向上させていく意欲と自己開発力を身に付けられる教育
4. チーム医療の担い手としての意識と能力を身に付けられる教育
5. 地域的視点と国際的視野の両方を持ち保健医療の諸課題に広く対応できる能力を身に付けられる教育
6. 作業療法士国家試験を受験できる知識と技術を身に付けられる教育

<教育課程の構成>

1. 初年次を中心に編成された、教養基礎科目、教養育成科目、学部別科目からなる教養教育、また専門科目への円滑な移行のための専門基礎・支持的科目により、全人的医療やチーム医療など保健医療従事者としての基礎的素養を身に付ける教育を展開する。
2. これを基礎として、専攻の教育目標を達成するための専門教育をカリキュラムマップに則って系統的に行う。学んだ知識を実際の場面で応用できる技術・方法の修得のため、実習、臨地実習、演習を重視し、専門分野での実践力を養う。

<教育内容・方法>

1. 学生の主体的・能動的な参加に基づいた講義・演習・実験・実習の各教科
2. シラバスに詳述された、カリキュラムを構成する授業科目の目標・内容・教育方法・評価方法等に基づいた授業の展開
3. シラバス記載の目標の達成に向けた、講義時間外の自己学習(予習・復習)の奨励
4. 実践力を養うための臨地実習の実施

<学修成果の評価>

学修成果の評価は、各科目についてはシラバス記載の成績(達成度)評価基準に基づいて行い、学期に従いS、A、B、C、Dの5段階での判定とこれを基にしたGPAの決定を行う。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

～このような人材を育てます～

<学位授与の条件・達成度・能力評価の基準>

1. 所定の年限在籍し、かつ作業療法学専攻に定められた単位を修得した者
2. 作業療法士に必要な知識と技術を備え、高い倫理観を持つ者

<学修成果の目標>

保健医療福祉における病状や障害に関する医学・保健学の知識に加え、人体の構造やメカニズムを理解し、作業療法分野の専門的知識と技術及び実践的応用能力を身に付けていること。

具体的には、

1. 全人的医療を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
2. 医療の基礎となる化学、生物学、物理学、生理学、解剖学などについて、その基礎を修得していること。
3. 作業療法学分野の新たな発展に必要な研究手法及び研究的思考法の基礎を修得していること。
4. 作業療法士に必要な作業療法の理論、身体障害、発達障害、高齢期障害、精神障害などの専門的知識と実践的応用能力を習得していること。
5. チーム医療の重要性を理解し、実践するための能力を身に付けていること。
6. 国際コミュニケーションスキルと地域・国際社会の保健医療のあり方の基礎を修得していること。

Q 勉学環境で知りたいことは

チューター制度とはどのようなものですか？

A **【医】【保】**：群馬大学医学部では、入学と同時に学生一人ひとりに対して指導教員(チューター)を割り当てています。生活上での相談、学業や進路などの相談はもとより、学問への志や医療人としての心構えなど自由に聞くことができます。

入学金・授業料免除、奨学金制度について教えてください。

A **【医】【保】**：学業成績が優秀であり、経済的な理由で学業の継続が困難な学生のために、一定の基準を満たしている場合、入学金・授業料免除制度があります。また、日本学生支援機構等の奨学金を取り扱っています。詳細は、群馬大学ホームページの「受験生のみなさまへ」(<http://www.gunma-u.ac.jp/>)をご覧ください。

サークルやアルバイトと学業の両立はできますか？

A **【医】【保】**：所属するサークルやアルバイトの職種等によってかなり左右されると思われますが、きちんとした自己管理と計画性を持っていれば、学業と両立させることは大抵の場合可能だと思われます。現在、多くの先輩がサークルやアルバイトと学業を両立させて医学部で学んでいます。

実家が遠いため1人暮らしをすることになるのですが。

A **【医】【保】**：1人暮らしをしている学生の大半は昭和キャンパス周辺にアパートを借りています。群馬大学生協同組合(<http://www.univcoop.jp/gundai/>)で紹介している物件をご覧いただくと様子が分かりますが、都心に比べると家賃は安めです。キャンパス周辺にはスーパーや飲食店が多く、生活を送るうえで非常に便利な環境といえます。

研修施設はありますか？

A **【医】【保】**：群馬のリゾート地として知られる北軽井沢と草津にあります。「北軽井沢研修所」は、元京都大学名誉教授 田辺元氏から寄贈された別荘を、5月上旬から10月中旬まで開所。「草津セミナーハウス」は、関東甲信越地区の国立大学が共同利用する合宿研修施設です。

Q 将来を見据えた注目の資格について

看護学専攻では、看護師の他に保健師と助産師両方の資格を取得できますか。

A **【保】**：保健師コースと助産師コースの両方を履修することはできません。選抜試験を受け、どちらか一方を履修することになります。また、編入学生は、保健師・助産師コースを履修することはできません。

保健師コースについて教えてください。

A **【保】**：保健師は、乳幼児から高齢者まですべての人々を対象に、保健所や市町村保健センター、企業などの場において、健康教育や健康相談、健康づくり環境整備などの活動を行い、人々の健康の保持・増進を支援する国家資格です。

看護学専攻にこのコースがあり、3年次終了時に所定の科目の成績及び選考試験の成績を評価して、コース履修者(40名)を選抜します。コース履修者は、4年次にさらに保健師国家試験受験資格に必要なカリキュラムを履修します。

助産師コースについて教えてください。

A **【保】**：助産師は、女性の妊娠、出産、産後の各期を通じて、サポート、ケア及び助言を行い、助産師の責任において出産を円滑に進め、新生児及び乳児のケアするなど女性の性と生殖に関する生涯の健康を支えるために、女性とパートナーシップを持って活動していく国家資格です。

看護学専攻にこのコースがあり、3年次終了時に所定の科目の成績及び選考試験の成績を評価して、コース履修者(8名)を選抜します。コース履修者は、4年次にさらに助産師国家試験受験資格に必要なカリキュラムを履修します。

養護教諭の免許が取得できるそうですが。

A **【保】**：保健師国家試験に合格し保健師免許を取得すると、教育職員免許法に定める所定の単位を大学で修得している場合には、申請するだけで養護教諭(2種)を取得することができます。

衛生管理者の免許が取得できるそうですが。

A **【保】**：保健師国家試験に合格し保健師免許を取得すると、労働基準監督署に申請するだけで衛生管理者(第1種)を取得することができます。労働安全衛生法により、常時50人以上の労働者を使用する事業者は、専属の衛生管理者を選任しなければならないとされているので、保健師と衛生管理者の資格があると、産業保健の仕事に就くときに役立ちます。

細胞検査士コースについて教えてください。

A **【保】**：細胞検査士は、人の身体の細胞を顕微鏡下で観察して、それが正常な細胞なのか、あるいは悪性の細胞なのかなどを調べます。この資格は、国家試験ではなく、学会の認定試験に合格すると得られます。その認定試験の受験資格を得られるコースが設置されているのは、国立大学法人では群馬大学、弘前大学、山口大学の3校だけです。

検査技術科学専攻にこのコースがあり、3年次になってから選択することができますが、人数枠(毎年5名程度)があるため、履修者は選抜試験で決めます。

Q その他

理学療法士と作業療法士の違いが分かりにくいのですが。

A **【保】**：理学療法士とは、治療体操や運動、マッサージ・電気刺激・温熱などの物理的手段を用いて、運動機能の回復を目的とした治療を行う人のことです。病気やケガにより、日常生活に支障を来した方々に対して、起き上がり、立ち上がり、歩行などの基本的な動作能力の回復を図る、身体的なリハビリテーションに携わります。理学療法の対象となる方は、新生児から高齢者、プロスポーツ選手などと幅広く、多方面での活躍が期待されます。

作業療法士とは、日常生活で行われる生活行為、家事、遊び、仕事などを治療手段として用い、障害を持つ人々や高齢者が身体や心の機能を回復させ、社会生活に参加することを支援します。大学では多岐にわたる活動の治療的な応用を学びます。最近では特別支援教育、介護予防、マネジメントの分野で注目され活躍の場が広がってきています。当専攻では作業活動の効果の研究に積極的に取り組んでいます。



北軽井沢研修所



草津セミナーハウス

Q 先輩たちの進路は？

国家試験の合格状況を教えてください。

A 【医】【保】：過去3年間の合格状況(新卒者)は以下のとおりです。

医学科

■ 医師国家試験合格率推移

| | 群馬大学(%) | 全国(%) |
|-----|---------|-------|
| H30 | 91.1 | 93.3 |
| H29 | 94.2 | 91.8 |
| H28 | 93.3 | 94.3 |

■ 医師国家試験受験者数と合格者数推移

| | 受験者数 | 合格者数 |
|-----|------|------|
| H30 | 124 | 113 |
| H29 | 120 | 113 |
| H28 | 105 | 98 |

保健学科

| | 保健師(%) | | 助産師(%) | | 看護師(%) | | 臨床検査技師(%) | | 理学療法士(%) | | 作業療法士(%) | |
|-----|--------|------|--------|------|--------|------|-----------|------|----------|------|----------|------|
| | 群馬大学 | 全国 | 群馬大学 | 全国 | 群馬大学 | 全国 | 群馬大学 | 全国 | 群馬大学 | 全国 | 群馬大学 | 全国 |
| H30 | 97.4 | 81.4 | 100.0 | 98.7 | 98.7 | 91.0 | 97.4 | 79.3 | 100.0 | 81.4 | 95.0 | 77.6 |
| H29 | 100.0 | 90.8 | 87.5 | 93.0 | 96.3 | 88.5 | 95.1 | 78.7 | 100.0 | 90.3 | 89.5 | 83.7 |
| H28 | 97.8 | 89.8 | 100.0 | 99.8 | 98.8 | 89.4 | 92.9 | 76.4 | 87.5 | 74.1 | 100.0 | 87.6 |

卒業後の進路について教えてください。

A 【医】：医師国家試験に合格した人は、卒業後の2年間は大学病院や教育指定病院で臨床研修医として専門に偏らずに幅広く研修し、その後、大学病院、一般市中病院、診療所、各種医療センターなどで専門領域のトレーニングを受けます。

なお、群馬大学の研修医になると、大学病院と市中病院を利用し、それぞれの長所を十分に生かし、各人の希望に沿った研修が可能です。また、大学病院では2年間の初期臨床研修修了後は、シニアレジデント制度を設けており、初期・後期研修の連続性を考慮した研修システムを構築しています。

A 【保】：保健学科卒業後、多くの学生は下記のように県内外の医療関連施設等で第一線の専門職として働いています。

● 卒業後の進路〈平成29年度〉

■ 看護学専攻

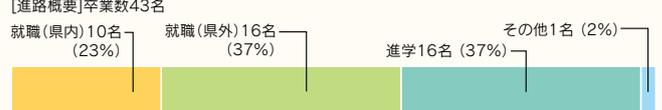
【進路概要】卒業数76名



【就職先】 群馬大学医学部附属病院、前橋赤十字病院、前橋市、伊勢崎市、医療法人社団美心会 黒沢病院、地域医療機能推進機構 群馬中央病院、国立病院機構 渋川医療センター、公益財団法人老年病研究所附属病院、自治医科大学附属病院、自衛官候補生、足利赤十字病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、埼玉県立病院、埼玉医科大学病院、蕨市、埼玉医科大学総合医療センター、深谷赤十字病院、千葉大学医学部附属病院、社会医療法人社団木下会 鎌ヶ谷総合病院、日本私立学校振興・共済事業団 東京臨海病院、東京大学医学部附属病院、国家公務員共済組合連合会 虎の門病院、杏林大学医学部附属病院、公立学校共済組合 関東中央病院、東京医科大学八王子医療センター、日本医科大学付属病院、武蔵野赤十字病院、横浜市立みなと赤十字病院、新潟大学医学部総合病院、JA長野厚生連 佐久総合病院、JA長野厚生連 佐久総合病院グループ 佐久医療センター、信州大学医学部附属病院

■ 検査技術科学専攻

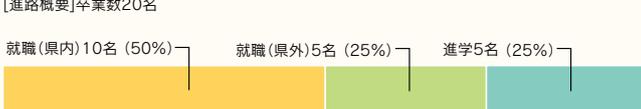
【進路概要】卒業数43名



【就職先】 桐生厚生総合病院、公益財団法人 群馬県健康づくり財団、医療法人社団日高会 日高病院、医療法人樹心会 角田病院、医療法人真木会 真木病院、医療法人社団美心会 黒沢病院、群馬県、群馬県済生会前橋病院、公益財団法人 福島県保健衛生協会、茨城県、水戸赤十字病院、足利赤十字病院、一般財団法人 とちぎメディカルセンター、自治医科大学附属病院、国際医療福祉大学塩谷病院、さいたま赤十字病院、戸田中央医科グループ、深谷赤十字病院、千葉県立病院、株式会社 昭和メディカルサイエンス、日本医科大学付属病院、一般財団法人 日本健康増進財団、国際医療福祉大学三田病院、佐久総合病院

■ 理学療法学専攻

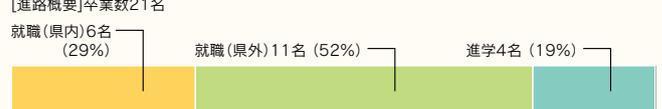
【進路概要】卒業数20名



【就職先】 沼田脳神経外科循環器科病院、公益財団法人老年病研究所附属病院、医療法人石井会 石井病院、医療法人上毛会 伊勢崎福島病院、桐生厚生総合病院、社会福祉法人二之沢愛育会 群馬整肢療護園、医療法人一羊会 上武呼吸器科内科病院、群馬中央医療生活協同組合 前橋協立病院、千葉県千葉リハビリテーションセンター、医療法人社団KNI 北原国際病院、横浜市立大学附属病院、佐久総合病院、国立病院機構 まつもと医療センター

■ 作業療法学専攻

【進路概要】卒業数21名



【就職先】 前橋赤十字病院、内田病院、社会福祉法人 明清会、沼田脳神経外科循環器科病院、医療法人相生会 わかば病院、足利赤十字病院、医療法人社団協友会 東川口総合病院、医療法人社団協友会 吉川中央総合病院、一般財団法人多摩緑成会 緑成会病院、社会福祉法人恩賜財団済生会神奈川県病院、医療法人社団哺育会 さがみりハビリテーション病院、社会医療法人桑名恵風会 桑名病院、静岡県済生会 静岡医療福祉センター、医療法人社団六心会 恒生病院

■ 受験準備・入学試験

Q.過去問題の入手方法は？

- ▶ 医学科・保健学科とも過去の試験問題を公開しています。請求方法等、詳細については、
・ 医 学 科：医学科ホームページ(<http://www.med.gunma-u.ac.jp/>)
・ 保健学科：保健学科ホームページ(<http://www.health.gunma-u.ac.jp/>)
をご確認ください。

Q.キャンパス見学は？

- ▶ 土日・祝祭日以外は原則的に見学可能ですが、必ず事前に学務課入学試験係へ電話等でご確認ください。見学する場合は、学務課入学試験係へお越しください。資料のお渡しや、ご質問にお答えします。
なお、例年実施しているオープンキャンパスに参加していただくと、本学教員や在学生の話を聞くことができます。
オープンキャンパスについては、33頁をご参照ください。

Q.授業見学の申込み方法は？

- ▶ 医学部保健学科では、高校生が自分の将来を考え、進路決定の際の参考のために、年間を通じて授業・実習の一部を見学できる制度があります。見学を希望する方は、授業見学申込書を学務課入学試験係まで送付してください。授業科目一覧、授業見学申込書は下記のURLからダウンロード可能です。
(<http://www.health.gunma-u.ac.jp/admissions/med/inspection.html>)

● キャンパス・授業見学連絡先

群馬大学昭和地区事務部学務課入学試験係
〒371-8511 前橋市昭和町3-39-22
TEL：027-220-8910 (医学科) 027-220-8909 (保健学科)

Q.出願するにあたり年齢制限(上限)はありますか？

- ▶ 医学科・保健学科とも年齢制限(上限)はありません。いずれの入学試験においても年齢はもちろん、性別、出身地、出身学校等の区別なく、全く同じ条件のもとで選抜を行っています。

Q.募集要項の発表時期はいつですか？

| 募集要項の種別 | 発表時期(予定) | 備 考 |
|------------------|----------|----------|
| 学生募集要項(一般入試) | 10月上旬 | ホームページのみ |
| 推薦入試学生募集要項 | 9月中旬 | |
| 帰国生・社会人入試学生募集要項 | | |
| 私費外国人留学生入試学生募集要項 | | |

志願者の利便性向上及び入試業務の効率化等を図るため、一般入試、特別入試(推薦入試、帰国生・社会人入試、私費外国人留学生入試)でインターネット出願を導入しています。

照会先 群馬大学学務部学生受入課入学試験係
〒371-8510 前橋市荒牧町四丁目2番地
TEL：027-220-7150



■ 学生生活

Q.学生生活支援は？

- ▶ **【学生教育研究災害傷害保険】**
学生が正課中、学校行事中、通学中、学校施設にいる間または課外活動中において、不慮の災害事故により傷害を受けた場合の補償救済制度です。
- ▶ **【生活協同組合】**
学生及び教職員の大多数が組合員となって組織・運営されている生活協同組合があります。書籍・日常生活用品を取り扱う購買部や、食堂、喫茶などを運営しています。また、下宿・アパートについて学生生活に適した部屋を紹介しています。
- ▶ **【学生寮】**
本学には、前橋地区に養心寮(収容人員：男子74名・女子62名、全室個室)があります。経費は、寄宿料が月額4,300円で、他に自治会費(2,400円/半期)、光熱水費(約6,000円/月)の実費が必要です。
- ▶ **【学生国際交流】**
医学部同窓会や後援会からの援助等により、インドネシア共和国立パジャジャラン大学、タイ王国立チェンマイ大学、コロンビア共和国のサバナ大学、モンゴルのモンゴル国立医科大学、アメリカ合衆国州立ワシントン大学、アメリカ合衆国のピュージェットサウンド大学等との交流プログラムがあり、毎年3名～7名程度の学生を派遣、あるいは受入れています。
このほかに、全学の留学プログラムや留学生との交流行事等も実施されています。

■ 受験準備・入学試験

Q.学費は？

- ▶ 入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合は、新授業料を適用します。毎年2期(前期：4月、後期：10月)に分けて徴収します。

| | |
|-------|--------------|
| 入 学 料 | 282,000円 |
| 授 業 料 | 535,800円(年額) |

Q.その他必要経費は？

▶ 医学科

| 入学時に必要な経費(予定) | 金額 |
|-------------------|-------------------|
| 刀城クラブ・同窓会終身会費 | 170,000円 |
| 後援会費(共用試験等受験料を含む) | 100,000円(90,000円) |
| 学生教育研究災害傷害保険料 | 4,800円(4,130円) |
| 学研災付帯賠償責任保険料 | 3,000円(2,500円) |
| 医療費補助会費 | 12,000円 |
| 荒牧クラブ・サークル協議会費 | 4,000円 |
| 学友会費 | 9,500円(8,000円) |
| テキスト代など | 年間約150,000円程度 |

※かつこ内の金額は、編入学した場合

▶ 保健学科

| 入学時に必要な経費(予定) | 金額 |
|----------------|------------------|
| 同窓会終身会費 | 40,000円 |
| 後援会費 | 40,000円(20,000円) |
| 学生教育研究災害傷害保険料 | 3,370円(1,790円) |
| 学研災付帯賠償責任保険料 | 2,000円(1,000円) |
| 荒牧クラブ・サークル協議会費 | 4,000円 |
| 学友会費 | 4,000円(2,000円) |

学外実習交通費 看護・検査技術科学専攻では一部の実習が学外で行われ、旅費の負担が必要です。
理学・作業療法学専攻では臨床実習の大半が学外施設で行われ、旅費や場合により宿泊費等の費用が必要となります。

テキスト代など 年間50,000～70,000円程度(専攻による)

※かつこ内の金額は、編入学した場合

▶ 【予防接種】

医学部学生は患者さん及び本人の感染防止のため、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎・結核等の予防接種・感染症検査を受ける必要があります。なお、検査・ワクチン接種にかかる費用は自費となります。



群馬大学医学部(医学科・保健学科)

■ 医学科 〒371-8511



群馬県前橋市昭和町三丁目39番地22号
TEL.027-220-7111(代)
<http://www.med.gunma-u.ac.jp/>

■ 保健学科 〒371-8514



群馬県前橋市昭和町三丁目39番地22号
TEL.027-220-7111(代)
<http://www.health.gunma-u.ac.jp/>

■ 入学に関するお問い合わせ

TEL.027-220-8908・8909・8910

LINE、Twitterでも群馬大学の入試情報等を配信中!



[前橋駅から] 渋川駅(小児医療センター)行バス乗車→群大病院入口下車 約13分 徒歩6分
[前橋駅から] 群大病院行バス乗車→群大病院下車 約15分
[渋川駅から] 前橋駅行バス乗車→群大病院入口下車 約30分 徒歩6分



https://page.line.me/gunma_uni_ad



http://twitter.com/gunma_uni_ad